

PSU 交流事業報告書~2015~

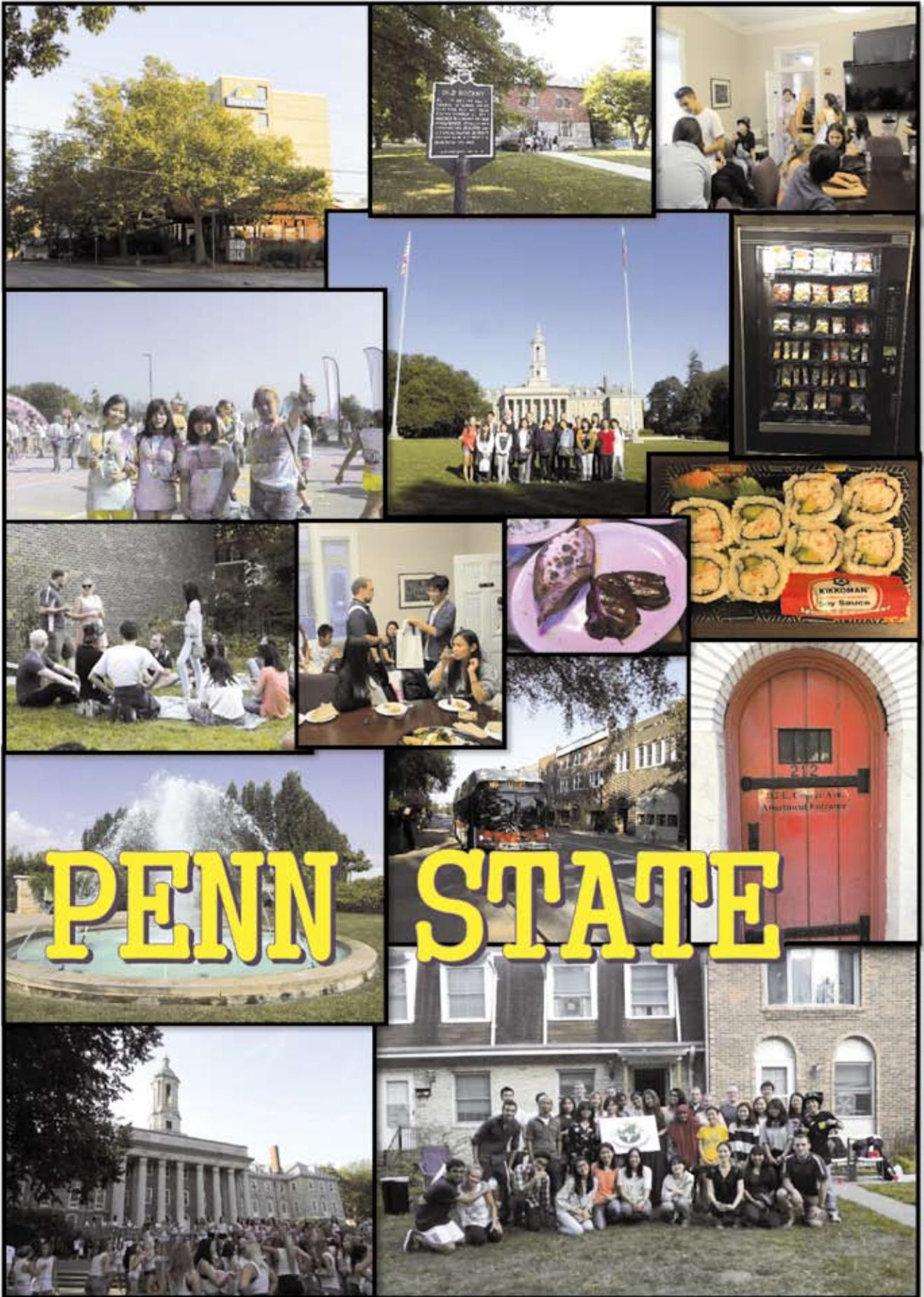


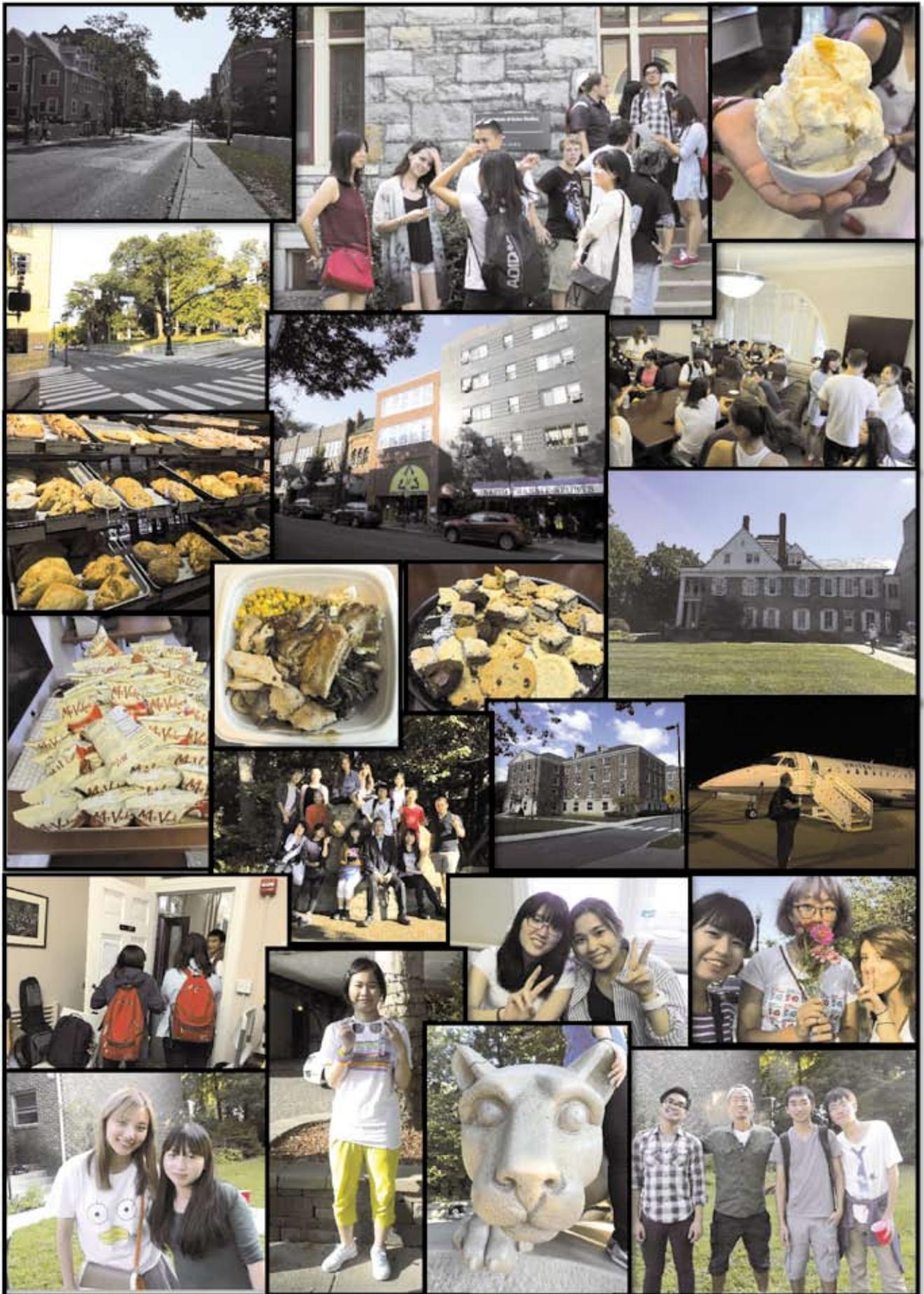
目 次

交流のスナップ		
① 5月茨城大学での交流	2	
② ペンシルベニア州立大学 (PSU) での 9月交流	4	
③ ニューヨーク研修	6	
④ ワシントン DC 研修	8	
物おじせずに駐米大使と面談	人文学部副学部長 古賀 純一郎	10
学生の成長を肌で実感	学務第一係 清家 佑華	11
たくましく成長した PSU 生	PSU 岩見 晴子	12
Benefited greatly from the kind hospitality and effort	PSU Gregory Smits	13
参加者名簿		14
ペンシルベニア州立大学の訪問日程 (5月)		15
5月研修での PSU 生の声		16
5月 PSU 交流の思い出	人文学部①星野由季菜 (4年) ②磯部 亮晶 (4年) ③金沢 悠哉 (1年) ④栗田 佳奈 (4年)	17
茨城大学の 9月研修日程表		19
研修全日程の詳細		20
Means of communication in PSU	団長 人文学部3年 富永 航平	26
PSU 生からのコメント		27
PSU 研修参加の思い出	①鈴木 里沙 ②富永 航平 ③篠原はるな ④大曾根伊織 ⑤新井 美穂 ⑥鳥羽田杏奈 ⑦小杉山伸之 ⑧熊木 萌樹	29
PSU 交流参加者アンケート		37
5月研修での PSU 生のアンケート (英語版)		44
8人の論文	①小杉山伸之 ②鈴木 里沙 ③新井 美穂 ④大曾根伊織 ⑤篠原はるな ⑥富永 航平 ⑦熊木 萌樹 ⑧鳥羽田杏奈	52

5月交流スナップ

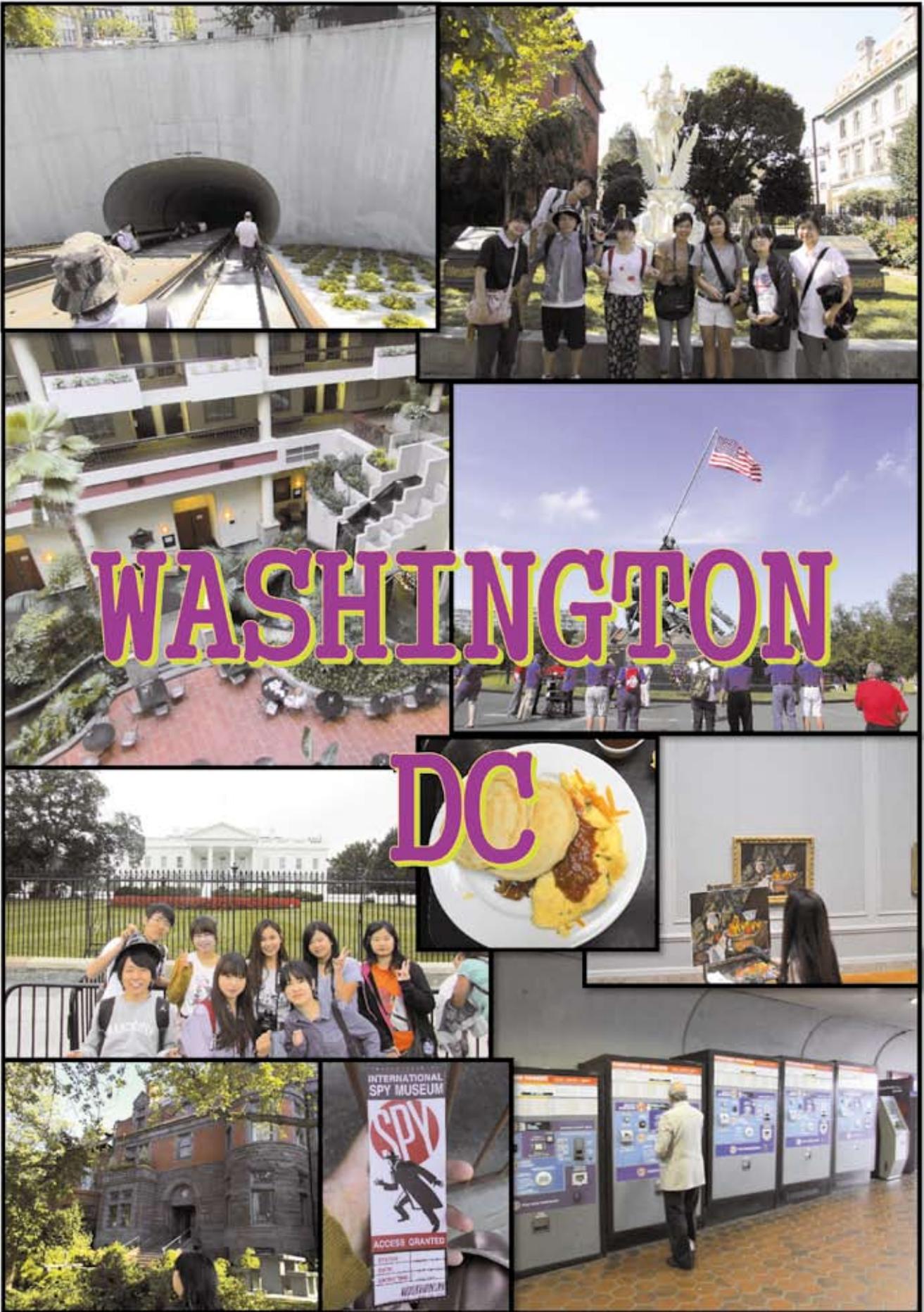


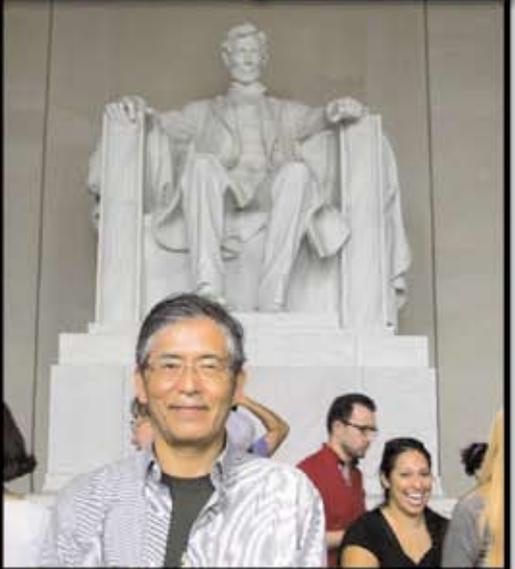
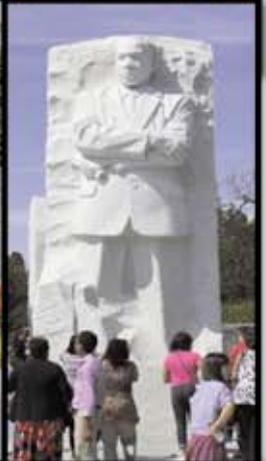












物おじせずに駐米大使と面談

人文学部副学部長（国際担当） 古賀純一郎

2回目となる米ペンシルベニア州立大（PSU）との交流は、学生全員が英語でレポートを執筆、パワーポイントを使いながら PSU 生の前で、英語で発表、質問にも応じるなど今年もグローバル人材の育成に向けて足掛かりとなる大きな成果をあげて終了した。

帰国後のアンケートで、学生全員から英語に対する違和感が消え、英語コミュニケーションにチャレンジできるようになったとの回答が確認できたのも昨年と同様である。

今回の特長は、PSU で開講されている日本語プログラムへの茨大生の参加だろうか。プログラムは、200 人程度が受講しており、アジアからの留学生にとって人気のようだ。漢字に慣れ親しんだ、特に、中韓からの留学生が高得点を期待できるのが魅力らしい。

最後に訪れたワシントン DC で、佐々江賢一郎駐米大使にこの話をぶついたら、アジア出身の留学生が激増している最近の米大学では一般的なケースで、「日本語に熟知すれば、帰国後の日本絡みのビジネスで大いに得をする。日本人も中国語、韓国語をもっと勉強するようにしなければ・・・」との返事が戻ってきた。

最終日の空き時間には、今度は、日本語 chatting の提案があった。茨大生が積極的に対応したのはもちろんである。

昨年の研修は、週末に独立当時の首都フィラデルフィアを訪問したのに対して、今年は、世界経済や文化の中心地 NY。長距離バスの乗車は、やや長くなり約 5 時間。帰国直前は、昨年の NY に対し政治の町ワシントン DC の滞在となった。

閉口したのは、ホテル代の予想外の高さ。円安の進行で一頃に比べて円ベースで 50%程度膨らんでいることや NY、ワシントンともドル表示の値段が高騰していることに大いに泣かされた。

シングルで 1 泊 3 万円以上が最低ライン。現地の邦人に頼んで格安ホテルの紹介を受けたが、それでも同程度の値段だった。もっとも、学生らが世界の外交の中核のホワイトハウスや官庁街を訪れ、DC の雰囲気や皮膚感覚で知ったのは良かったと考えている。

大使館での約 1 時間程度会見で、「入室前は足が震えた」と語っていた学生らは、入室後一転、物おじせずに佐々江大使に矢継ぎ早に質問をぶつけていた。大したものである。

会見では、セキュリティーにも話題が及び、防弾ガラスが厚さ 5 センチ程度、大使の部屋の窓も防弾ガラスであるなどの超シークレット情報にアクセスできた。至極当然なのであるが、銃などによるテロが日常的に起きている米国ならではの話と感じ入った。

いずれにせよ、全員無事の帰国で何よりだった。交流を指揮する PSU のオンチョー学部長は、歓迎会の挨拶で、両大学の交流の意義と今後の継続を今年も強調していた。もっとも、仕切り直しをどうするのか、バージョンアップを考える必要がある。2 年連続の私の引率も、来年は別の教員お願いすることになるろう。

学生の成長を肌で実感

人文学部学務第一係 清家佑華

茨城大学とアメリカ・ペンシルバニア州立大学（以下 PSU）は 2009 年に交流協定を締結しました。協定を締結してから今年で 6 年目ですが、今回のような相互に相手の大学を訪問・交流する事業は今年で 2 回目です。5 月には PSU の学生が茨城大学を訪れ、茨城大学の授業を受けながら学生との交流を行いましたが、今回は茨城大学の学生が PSU を訪れ、英語を勉強しながら PSU の学生と親交を深めるという形での交流となりました。また、海外視察として、ニューヨークやワシントンでの研修も行いました。私も引率補助及び動画撮影業務のため、今回の交流事業に参加させていただきました。

PSU に訪れた時の第一印象は「大きな大学」でした。広大な敷地、その敷地の中にある数多くの校舎、豊かな自然……日本では見たことのない規模の大学に圧倒されました。大学敷地内の施設も、図書館といったオーソドックスなものからアイスクリーム製造所まで幅広くあります。大学のすぐ近くにスーパーがあることもあり、大学及び大学付近だけで十分生活出来てしまうほどです。あまりに広大な敷地を持っている大学のため、15 分の休み時間では、授業が連続している場合移動するだけでギリギリになってしまうそうです。それでも、学生数が 40000 人近い PSU では教室数が不足しているとのことでした。

また、日本の大学とは違い、教員が 1 日の授業の長さがある程度弾力的に決めることも出来るようです。1 週間で決められた時間数出勤すれば良いということで、たとえばある授業は 50 分だがある授業は 90 分というように、弾力的な授業組み立てを行うことが可能です。PSU で働いている日本人の教員は常勤非常勤合わせて 6 人であり、日本語に関する授業については、教員間で調整をして時間割を決めているとのことでした。

私の主な仕事は今回の事業の様子を撮影し、本学部のウェブサイトに掲載する動画を作成することでした。そのため、学生が PSU の学生と行動する様子や、その日あったことや翌日の目標をインタビューしていたのですが、どの学生もその日の出来事を、目を輝かせながら話していました。また、PSU 滞在中、学生達がプレゼン発表を行う様子を撮影しましたが、彼らが英語で生き生きとプレゼン発表をする様子を見て、学生達の成長を肌で感じる事が出来ました。歓迎会や送別会では、お世話になった PSU の学生達と英語や日本語で楽しそうに談笑する学生達の姿も見受けられました。16 日間という短い期間ではありましたが、学生が成長していく様子を生で見る事が出来たのは、とても貴重な経験だったと思います。

今回の交流事業が無事成功したのは、古賀純一郎先生、池田庸子先生をはじめとした茨城大学の先生方、及び岩見先生や立花先生をはじめとした PSU の先生方のおかげです。

また、今回の交流事業に参加させていただくにあたり、お世話になりました皆様にこの場を借りてお礼申しあげます。ありがとうございました。

5月のプログラムも9月のプログラムも大成功

ペンシルベニア州立大学 日本語講師 岩見晴子

5月にペンシルベニア州立大学の学生9名を引率し、茨城大学へ行くことになった。大学の決まりで学生を外国へ連れていく者は講習を受けなければならない。講習会へ行ってみると、学生を安全に連れていき、安全に連れ帰ることが趣旨だった。20歳前後の学生でも、12歳だと思ったほうが良いと言う。へえ、そうか、車がどちら側から走ってくるかも分からないのだからそうかもしれないと覚悟した。

成田空港から高速バスで水戸へ。快適だ。次は水戸駅からホテルのある大工町までバスに乗る。乗る時に回数券を取り、降りる時には回数券の番号と料金表を照らし合わせて料金を確認し、回数券と一緒に箱にお金を入れる。お釣りがいるときは先に両替機で両替し、ぴったりの金額を箱に入れる。なるほど、日本の12歳ならこんなことは簡単だが、どれが10円玉かも分からない学生には複雑すぎる。夕方他の乗客もたくさん乗っている。大声で指示することもできない。運転手さんが1人1人手伝ってくれて、回数券は出しても出さなくてももうどっちでもよし。とにかくホテルについてホッとした。

そんな学生たちが、約1週間の水戸滞在を終えて東京へ行くまでにはたくましく成長していた。どこか行きたいところがあったら連れて行ってあげると言っても、誰もお願いしますと言わない。さびしいなあ。ある学生は築地の魚市場から渋谷のハチ公前まで1人で行くと言う。この成長ぶりが、水戸で茨大生に世話してもらい、一緒に行動するうちにたくさんのことを学んだ賜物だとしみじみ思ったのは、実は9月に茨大生を受け入れた後にうちの学生たちが書いたレポートを読んでからだった。

8名の茨大生をお世話したのはPenn Stateの学生31名。参加理由は去年やって楽しかったからもう一度やりたい、5月に行った時に大変よくしてもらったのでお返しをしたい、日本語の授業を取っているから力試しをしたい、など。1週目に3日、2週目に4日お相手をした。グループごとに何時にどこで誰と何をしているという予定表を提出させていたが、毎日5時のミーティングで安全確認と事務連絡をするだけでは、活動の様子は私には伝わってこなかった。楽しくやっているようだけど。

終了後のレポートを読んで、学生たちがどんなに泣いたり笑ったりしながら、日々を過ごしたか分かった。「初めは緊張した」、「カラー・ランに行き、打ち解けられた」、「乗馬に連れて行った」、「茨大生がハンバーガーを食べ続けているのを見て、申し訳なく思った」、「自分では行かないところへ茨大生のおかげで行ってみた」、「体育館でバスケットやバレーボールをして楽しかった」、「中国人と日本人がアメリカで仲良くなるなんて不思議だ」、「〇〇さんのプロジェクト発表の準備を手伝って、発表がうまく行った時には〇〇さんを誇らしく思った」、「人を助けることによって、自分の良さや能力に気づいた」。

なんとまあ自由な発想で活動が行われていたことだろう。(中には予め相談してくれなくてよかったと思うものも...) こうやってお互いにたくさんのことを学んだらしい。うちの学生も5月に行った時に(特にアフター5の活動で?) 同じように茨大生からたくさんことを学んで12歳から20歳に成長したのだろう。5月のプログラムも9月のプログラムも大成功。またやってあげたい。

最後に、こうした自律的な活動と学びの場を用意してくださった茨城大学の先生方、関係各位の皆様、そして、週末に手取り足取り色々教えてくださったホストファミリーの皆様にも厚くお礼申し上げます。

Benefited greatly from the kind hospitality and effort

Gregory Smits

On May 12 and May 13, 2015, a group of students from Pennsylvania State University traveled to Mito to visit Ibaraki University and to participate in activities with Ibaraki University Students and faculty. The Pennsylvania State University (PSU) students were:

Patricio DE LA FUENTE DURAN

Jie GAO

Yang HONG

Xing Yi HUANG

Chencheng QIAN

Andrew RADICK

Kirk SYNNESTVEDT

Cody WILTROUT

Haruko IWAMI, instructor of Japanese, and Gregory SMITS, associate professor of history, participated as faculty leaders.

The Penn State student participants for 2015 represented a variety of majors. Some were familiar with Japan and could speak Japanese, and some had little or no knowledge of Japan. Formal activities included lectures on topics connected with history and culture and field trips. PSU students also toured Ibaraki University and met with groups of Ibaraki students for informal activities. Many PSU students mentioned that these informal activities were especially valuable and enjoyable.

For most of the PSU students, the highlight of the visit was the homestay. The PSU students are thankful for the wonderful experiences provided by their homestay families. During the final day in Mito, PSU students gave presentations, participated in a farewell party, and participated in informal activities. The total stay in Mito for most of the students was one week. All of the PSU students benefited greatly from the kind hospitality and effort of their hosts, the students and faculty of Ibaraki University.

参加者名簿(茨城大学生)

①	富永 航平	Tominaga Kohei	28	宮崎 繁	Miyazaki Shigeru
②	新井 美穂	Arai Miho	29	林田 直也	Hayashida Naoya
③	篠原 はるな	Shinohara Haruna	30	塩崎 孔英	Shiozaki Tadahide
④	鳥羽田 杏奈	Torihata Anna	31	望月 蘭心	Mochizuki Rammi
⑤	大曾根 伊織	Osone Iori	32	細川 凌一	Hosokawa Riyouichi
⑥	小杉山 伸之	Kosugiyama Nobuyuki	33	飯塚 子都香	Iitsuka Kotoka
⑦	熊木 萌樹	Kumaki Moegi	34	小山 里美	Oyama Satomi
⑧	鈴木 里沙	Suzuki Risa	35	小玉 晴南	Kodama Haruna
9	星野 由季菜	Hoshino Yukina	36	嶋田 亮太	Shimada Riyouta
10	軽部 蓮	Karube Ren	37	千村 瑠香	Chimura Ruka
11	篠田 美都	Shinoda Mitsu	38	畠山 知希	Hatakeyama Tomoki
12	菅家 美樹	Kanke Miki	39	原 郁実	Hara Ikumi
13	園部 理奈	Sonobe Rina	40	久野 真依	Hisano Mai
14	平野 春香	Hirano Haruka	41	平石 尊人	Hiraishi Takahito
15	藤沼 加奈	Fujinuma Kana	42	平山 友美	Hirayama Tomomi
16	小勝 さやか	Kokatsu Sayaka	43	森本 真由	Morimoto Mayu
17	堀 佳月	Hori Kazuki	44	山口 紗奈子	Yamaguchi Sanako
18	阿部 友佳子	Abe Yukako	45	綿引 千晴	Watahiki Chiharu
19	遠藤 祐希	Endou Yuki	46	金沢 悠哉	Kanezawa Yuuya
20	尾形 佳介	Ogata Keisuke	47	中原 沙彩	Nakahara Saya
21	川上 淳	Kawakami Jun	48	小貫 えみり	Onuki Emiri
22	木下 絵美梨	Kinoshita Emiri	49	阿部和政	Abe Kazuasa
23	澁谷 颯季	Shibuya Satsuki	50	酒井麻里菜	Sakai Marie
24	高橋 優太	Takahashi Yuuta	51	宮川智子	Miyagawa Tomoko
25	千葉 はづき	Chiba Hazuki	52	後藤瑞貴	Goto Mizuki
26	清水 あかり	Shimizu Akari	53	Tran Ha Van	Tran Ha Van
27	石井 順恵	Ishii Yoshie	54	水上大輝	Minagami Taiki

※数字を○で囲んだ1から8までの8人が9月研修にも参加しました。

ペンシルベニア州立大学の訪問日程(5月)

5月14日(木)		
午前	10:00 図書館入口に集合(図書館3階ライブラリーホールへ) 永井先生の英語講義(日本語と英語)	池田先生
12:10-13:30	人文講義棟A201へ移動、初顔合わせ会、学長挨拶	高根、久貝
午後	13:30、杉浦先生の英語講義(図書館3階ライブラリーホール:確認済) 15:00、キャンパスツアー(マジックサークル、剣道部など) 17:30 リポートに向けたミーティング①(菊池、久貝)	引率者歓迎会
5月15日(金)		
10:30~	食の講義(教育学部石島先生~13:00) エプロン、バンダナ必携 教育学部のC302に集合、C316で実習調理(星野)材料費500円程度	古賀
14:40~	4時限目:付先生の英語講義(日本事情、A201確保)	
16:20-17:20	5時限目:(司会:付先生)留学生の講話[共通1号館2階第1会議室]	池田先生
Pm6:00	ホームステイとの対面式[共通教育棟1号館2階第1会議室]	
5月16日(土)、17日(日)		
ホームステイ、日曜日:夕方5時ごろまでにホテルに戻る		
5月18日(月)		
field trip (by bus)	10:00 茨城大正門近くの事務棟集合 10:30 借楽園を訪問、笠間方面へイオンモールで食事、ショッピング 14:00~笠間稲荷神社訪問、笠間焼の様子を見学、付近を散策 16:30~リポートに向けたミーティング②(菊池、栗田、西江)	古賀
5月19日(火)		
9:30	図書館前に集合	池田先生
10:00-12:00	茶道体験	
13:00-14:30	乙部先生の英語講義(日米の公共観、図書館3階ライブラリーホール) リポート執筆に向けたミーティング③(菊池、磯部、久貝、高根)	学部運営会議
5月20日(水)		
9:30-11:30	PSU生のリポート発表会図書館(図書館3階ライブラリーホール)	
昼~13:00	簡単なお別れ会(司会:西江、大曾根、栗田:A201)	教授会
5月21日(木)		
午前	一行は、朝から東京へ PSU生の2泊3日の旅?	
5月24日(日)		
成田発 ✈️✈️✈️ 米国へ		

5 月研修での PSU 生の声

▽水戸や茨大生とのコミュニケーションは楽しめましたか？

- ・茨大生徒の会話はとても楽しく、日本の新しい側面を知ることができて良かったです。
- ・茨大生は英語が上手で、一生懸命話しかけてくれたので良かったです。
- ・茨大に留学したいと思いました。
- ・たくさんの茨大生と出会えたことはよい思い出になりました。

▽茨城大学の講義はどうでしたか？

- ・少し長く感じた。付先生の講義はとてもおもしろかったです。日本の人種問題について詳しい例を挙げての説明がありいろいろ勉強になりました。
- ・とても有益でした。
- ・知らないことを知ることができてとても良かった。
- ・とても興味深かったです。

▽フィールドトリップはどうでしたか？

- ・日本の昔の建物に興味を持つことができました。とても楽しかったです。
- ・モールに行き、学生と歩いたり買い物することができて楽しかったです。
- ・日本のお店を見ることができて良かったです。
- ・伝統的な量の建物がとても興味深かったです。とても印象的でした。

▽教育学部の料理の授業はどうでしたか？

- ・学生が手伝ってくれて、おいしい料理を作ることができた。
- ・伝統的な日本料理の作り方を学ぶことができて楽しかった。
- ・料理の授業は、ためになるし、楽しく、おいしくて良かった。
- ・アニメでよく見た家庭料理に憧れていました。この授業に参加できて良かったです。

▽ホームステイはどうでしたか？

- ・素晴らしかった。日本の文化について深く知ることができました。
- ・旅行者としてだけでなく、日本に住んでいるような体験をすることができた。
- ・いろんな場所に連れて行ってもらい、たくさんの経験をした。
- ・ホストは、まるで自分の子供のようにいろんな場所へ連れて行ってくれた。

▽お別れ会はどうでしたか？

- ・とても楽しかった。でも別れが寂しくもあった。
- ・寿司がおいしかった。
- ・終始笑顔で過ごせた。
- ・学生が手作りしてくれたお別れ会で、有り難かったです。(詳細英語版は巻末に採録)

次回も是非参加したい

人文学部 4年 星野由季菜

昨年度に引き続き、今年も PSU の受け入れ事業に参加しました。PSU の学生達とともにキャンパスを回ったり、日本食を作ったりしました。グループワークでは中国人のイング君と一緒にになりました。彼はとても優しく、日本語も読み書きはできませんが少し話すことができます。帰国後も連絡を取り合っており、今は日本語を勉強してひらがなを書けるようになりました。メールのやりとりは日本語です。日本に興味をもち、帰国後もこうして勉強を続けている友人がいることは非常にうれしく思います。

ホームステイの受け入れも今年で2回目。中国人のシーシーちゃんが我が家に来ました。私の家族は中国人との接点が今までなかったため初めはどのような子がくるのだろう、と少々心配していました。しかし、彼女の明るく、礼儀正しく、優しい人柄にすぐ虜になってしまいました。私の家族は「中国人」という国籍で人柄を判断しがちでしたが、今回実際に交流して、本当の雰囲気やその人の良さを知ることができたと思います。県内の観光地を巡ったり、田植を体験したり、彼女とともに楽しい時間を過ごしました。私は特にこの2人と深く交流していましたが、他のメンバーもとてもフレンドリーで、笑顔溢れる交流事業でした。また参加したいです！！

飛び込んで人生が豊かに

人文学部 4年 磯部堯晶

前年9月のペンシルバニア州立大学（PSU）へのプログラムにも参加しました。現地での PSU 生たちのサポートのおかげで毎日が大変楽しく、刺激に満ち、充実したものとなりました。おかげで友人もたくさんでき、留学の日程を終え PSU を離れるのがつらかったことを覚えています。

今回の5月の交流は、その PSU から茨城大学に留学生が来るということで、「恩返しをしたい！」と思い、就職活動中ではありましたが参加を決めました。9月にできた友人が個人的に連絡をしてくれていたもので、再会が本当に楽しみでした。半年以上振りとは思えないほどすぐに盛り上がることができました。もちろん新たにたくさんの友人ができ、今でも連絡を取り合っています。プログラムも大変楽しんでくれて PSU の学生たちのきらきらした笑顔を見ることができて幸せな気持ちになりました。

人との繋がりは人生の財産です。9月の留学、5月の交流ともさまざまな学びを得ることができ、自らを成長させてくれましたが、何より一番大きいのはたくさんの友人ができたことです。外国の学生と交流を深め仲良くなる機会は、自分から飛び込まないとなかなかありません。茨城大学にはそのチャンスがあります。私は飛び込んで人生が豊かになったと思います。海の向こうで頑張っている友人たちに負けないよう、胸を張って再会できるよう、毎日を過ごしていきます。

積極性の大切さを実感

人文学部社会科学科 1年 金沢悠哉

茨城大学に入学して間もない5月、PSUとの交流事業に参加しました。授業の関係で、私が参加することができた活動は、初日の初顔合わせ会と二日目の留学生の講話、そして最終日のお別れ会だけでした。交流の機会は少なかったですが、その分濃い時間を過ごすことができたと思います。

交流を通して特に強く実感したことは、拙い英語でも積極的に話せば意思疎通がはかれるということです。私の英語力は未熟で、PSU生と会話していると、日本語なら言えるのに英語が分からないという場面が何度もありました。しかし、ジェスチャーや言い換え、PSU生のフォローのおかげで自分の意思を相手に伝えることができました。会話における積極性の大切さを実感すると同時に、語学学習に対するモチベーションが高まりました。

今回の交流事業での活動は、私にとってどれも新鮮で貴重なものでした。この経験を大切にして今後の学生生活を送っていきたいと思います。

充実した2週間

人文学部人文コミュニケーション学科 4年 栗田佳奈

この2週間は私にとって非常に有意義で濃いものとなりました。昨年の夏にPSUで出会った友人とまた再会できることが何か月も前からずっと楽しみで、「PSUで心のこもったおもてなしをしてもらった分、この2週間で全力で楽しんでほしい！」との思いを募らせていました。

実際に過ごす2週間は本当にあっという間でした。一緒に授業を受けるだけでなく、フィールドトリップで偕楽園や笠間を訪れ、写真を撮ったり買い物を楽しんだりしながらたくさん話ができて、とても良い思い出になりました。また、私たちが普段慣れ親しんでいるお店や場所を紹介でき、気に入ってもらえて非常に嬉しかったです。

この大切な友情を今後も続けていきたいと心から思っています。また彼女たちに会いに行き、日本に来てくれたら心からおもてなししたいと考えています。そのためにもこれからも国際交流に積極的に参加し、英語のスキルアップのために頑張ります。

9月研修日程表

	月日	都市名	現地時間	交通機関	摘 要	食 事
1	2015年 9/6 (日)	成 田 発 シ カ ゴ 着 シ カ ゴ 発 ユニバーシティパーク着 (S C E)	13:00 17:30 14:50 18:53 21:17	UA882 UA6026	成田空港第1ターミナル集合 チェックイン 空路ワシントンへ ＜所要時間： 11時間 20分＞ 乗り継ぎ ユニバーシティパークへ ＜所要時間： 1時間 42分＞ ペンシルバニア州立大学へ	夕：機 朝：機 昼：× 夕：×
2	9/7 (月)	ペンシルベニア			ペンシルベニア州立大学英語研修講座 (日本との時差：-13時間)	朝：-
↓	↓					9/9 (水)
4	9/10 (木)	ニ ュ - ヨ - ク			ニューヨーク視察 ＜ニューヨーク泊＞	夕：-
5	9/10 (木)	ニ ュ - ヨ - ク			ニューヨーク視察 ＜ニューヨーク泊＞	朝：× 昼：× 夕：×
6	9/11 (金)	ニ ュ - ヨ - ク			ニューヨーク視察 ＜ニューヨーク泊＞	朝：○ 昼：× 夕：×
7	9/12 (土)	ニ ュ - ヨ - ク			ニューヨーク視察 ＜ニューヨーク泊＞	朝：○ 昼：× 夕：×
8	9/13(日)	ペンシルベニア			ペンシルベニア州立大学英語研修講座	朝：
↓	↓					9/16 (水)
11	9/17 (木)	ユニバーシティパーク発 (S C E) ワシントン着	19:28 20:25	UA5014 専用車	空路、ワシントンへ(時差なし) ＜所要時間： 時間 57分＞ 着後、ホテルへ ＜ワシントンのホテル泊＞	夕：-
12	9/17 (木)	ユニバーシティパーク発 (S C E) ワシントン着	19:28 20:25	UA5014 専用車	空路、ワシントンへ(時差なし) ＜所要時間： 時間 57分＞ 着後、ホテルへ ＜ワシントンのホテル泊＞	朝：× 昼：× 夕：×
13	9/18 (金)	ワ シ ン ト ン	終日		ワシントン市内見学 ＜ワシントンのホテル泊＞	朝：○ 昼：○ 夕：×
14	9/19 (土)	ワ シ ン ト ン	終日		＜ワシントンのホテル泊＞	朝：○ 昼：× 夕：×
15	9/20 (日)	ワ シ ン ト ン 発 (I A D)	13:10	専用車 UA803	午前：空港へ 帰国の途へ ＜所要時間： 13時間 50分＞ ＜機 内 泊＞	朝：○ 昼：機 夕：機
16	9/21 (月)	成 田 着	16:00		到着後、解散	昼：機

研修全日程の詳細

現地の Penn State に到着した翌日の **2015 年 9 月 7 日** (月) は、米国の **Labor Day**(勤労感謝の日)で休日。大学が休みだったにも拘わらず、PSU 生たちは、訪問した自分たち茨大生を歓迎するイベントを企画してくれた。この日から、ペンシルベニア州立大学 (PSU) 生との交流が実質的に始まった。

9/7 (月)

- 9 : 00 ロビーにて ホストメンバーと合流
- 10 : 00 PSU にて **The Color Run** に参加
- 13 : 00 **Lunch Time**
- 16 : 00 **Welcome Party**
- 17 : 00 PSU 生宅で **BBQ・ゲーム**

熊木萌樹

研修 1 日目。まだ緊張がとけない中、私の所属する班を含めた複数のグループはキャンパス内で開催された **5 キロ**のマラソンのイベント「**The Color Run**」に参加。コースが学内だったのでホストメンバーらに建物を紹介してもらいながらゴールした。広さに圧倒され、またアメリカンなノリのライブも体感できた。ホストとは基本的に英語で話したが、理解できないと、日本語を交えて親切に対応してくれた。夕方の **Welcome Party** では PSU 生全員が、茨大生を暖かく迎えてくれた。終了後の場所を移しての **BBQ** (バーベキュー) ではハンバーガーを食べ、フリスビーで遊び、交流を楽しんだ。少しだけ、不安が和らいだ。

9/8 (火)

PSU 研修 初日

- 9 : 00 **HUB** でホストメンバーと朝食
- 9 : 45~11 : 00 授業(**Japanese Film and New Media**)
- 11 : 15~12 : 05 授業(日本語クラス)
- 12 : 20~13 : 10 **HUB** で昼食
- 13 : 25~14 : 15 授業(**PE**)
- 17 : 00 学外で夕食
- 18 : 00 PSU で有名なアイスクリーム屋さんに行く
- 19 : 00 ホストメンバーのアパートに遊びに行く

鈴木里沙

学生生活を実体験した。英語による歌舞伎についての講義に参加、日本語クラスにも加わって俄か助手に変身。会話の手本になるなど米国に居ながらにして“日本”を学んだ。講義の英語は、少し難しかったが、体育の授業では PSU 生らと一緒に試合を楽しんだ。ホストメンバーらと話をするととても面白かった。学内の施設や日常、友達らを紹介してくれた。うち 1 人が自分のアパートに招いてくれて、ルームメイトらと英語や日本語、時には中国語を使って交流した。ホストメンバーとルームメイトらは中国人で半数が日本語を話せ、とても驚いた。同時に日本の文化に興味を持ってくれていて嬉しかった。

9/9 (水)

Penn State のダウンタウン散策

小杉山伸之

ホストらとダウンタウンを散策した。アメコミの専門店へ行き、現地で有名なドーナツ屋さんでコーヒーを御馳走になった。印象に残ったのは、米国の大学には **Fraternity** (社交クラブ) と呼ばれるそれぞれの学部が所有している秘密基地のような建物がある。そこで毎週末パーティーをする。日本には無い文化で、とても興味深かった。PSU 生手作りのゲームで勝負をしたが完敗だった。

9/10 (木)

NY での研修がスタート。バスの停留所がある近くのショッピングセンターのウォールマートの駐車場へ早朝に到着、ニューヨーク行き的高速長距離バス (メガバス) に全員が乗車した。途中の休憩をはさんで、マンハッタンへは 5 時間超の行程。

15 : 00 Pennsylvania 駅前の Hotel Pennsylvania にチェックイン

16 : 00 タイムズスクエアなどマンハッタン散策へ

18 : 00 エンパイアステートビル

19 : 00 夕食をとり、ホテルへ戻る

大曾根伊織

待ちに待った NY 初日。映画やテレビでよく見るタイムズスクエアを自分の目で見ることができ、「米国に来たのだな」と実感。雨が降ったりやんだりの天気、上空が雲で覆われていたため、摩天楼エンパイアステートビルからの夜景は、次の日へ延期。雨上がりの水たまりに反射してキラキラ輝くタイムズスクエアの夜の光は、普通の日に比べ華やかさが増し、とてもきれいで感動した。

9/11 (金)

NY 研修 2 日目

- 8 : 00 NY の象徴の「自由の女神」への遊覧船の出ているバッテリーパークへ到着
- 9 : 00 スタチュークルーズ乗船、リバティ島へ
- 9 : 15 「自由の女神」
- 11 : 00 スタチュークルーズ乗船(エリスアイランド経由)
- 12 : 00 バッテリーパークで昼食
- 14 : 00 ウォール街
トリニティ教会
- 15 : 00 ブルックリンブリッジ
- 18 : 00 エンパイアステートビル

鳥羽田杏奈

「自由の女神」の見学では早朝のクルーズに乗船したことで、ゆったりと観光することができた。その巨大さ優雅さに感動した。下船後訪れたウォール街は活気に満ちており、世界経済の中心ニューヨークを肌で感じた。一つ一つの建築物が壮大で、その歴史を振り返りながら散策した。そうした中で、突如として荘厳な建物に出くわした。トリニティ教会である。入ると 14 年前のこの日に発生した 9.11 同時多発テロを追悼するミサの真っ最中。美しいステンドグラスから漏れる光と、楽団の生演奏に、数分間の滞在であったが心が浄化された気持ちになった。その後、対岸のブルックリン地区へ。狭い町中に多くの人でごった返しているマンハッタンとは打って変わってとても静か。「こちらのほうが落ち着くので好きだ」という学生もいた。もともと、駅から離れると治安の悪さを体感し、恐しささえも感じた。吊り橋を渡ってマンハッタンに舞い戻り、1 日の最後は、エンパイアステートビル。展望台からみる夜景はどこまでも広がっていた。高層ビルや通りに沿って輝くネオンやライトに NY の秘めた凄まじいエネルギーを肌で感じた。「アメリカは何もかもが大きすぎて写真におさまりきれないね」と皆で話したこともまた、印象的だった。

9/12 (土)

NY 研修 3 日目 アッパーウエストサイド

- 9 : 00 地下鉄で NY 市民の憩いの場、セントラルパークへ
- 10 : 00 公園内を散策
- 11 : 00 アメリカ自然史博物館
- 13 : 00 移動
- 13 : 45 露店で昼食
- 14 : 10 メトロポリタン美術館
- 16 : 00 5 番街へ

18:30 ホテル着

篠原はるな

セントラルパークでは、馬車が走っていたり、ハーブを弾いている人がいたり、数々の面白い体験ができた。当初の予定では METO（メトロポリタン美術館）を最初に訪れるはずでした。巨大な公園内を地図を頼りに歩くこと 30 分。やっとたどり着いたと思ったら、それとは、真逆の自然史博物館だったというハプニングがあった。世界的な恐竜などの展示で有名な自然史博物館では、映画「ナイトミュージアム」に登場した展示もあった。恐竜のほか民俗文化の展示もあり日本と違って面白かった。

9/13（日）

ニューヨーク研修 4 日目

～AM11:00 自由時間、チェックアウト

～AM11:40 自由時間

11:50 ホテル出発

12:40 メガバスでステート・カレッジへ

17:00 ステート・カレッジ着

21:00 白米パーティー

22:00～ 就寝

新井美穂

午前 9 時過ぎくらいから街を散策した。日曜日ということもあってか、ブランドショップ、土産店、レストラン、公共機関などの多くが閉まっていた。安息日なのかはわからなかったが、アメリカらしいと思った。メガバスに揺られて、ステート・カレッジに舞い戻った時、外気が下がり、かなり寒かった。夏が本当に短いのだなと感じた。

夕刻は、日本から持ってきたレトルトの白米を持ち寄り、皆でいただいた。惣菜も何もなく、白米にただ、ふりかけをかけただけだったが、とてもおいしかった。一人がお茶漬けにしようとして、コーヒーマーカーでお湯を沸かした。分量を間違えたらしく、コップから水が溢れ出たのでびっくりした。まだ、アメリカに来てわずかなのだけれど、「帰ってきたなあ」としみじみと思った。

9/14（月）

9:00 ホテル前に集合

10:00 日本語の授業で発表

11:15 図書館で発表の準備

12:10 昼食

- 13:00 宇宙工学の授業
- 14:30 アジア史の授業
- 15:35 近くの山でハイキング・乗馬
- 19:00 夕食
- 21:00 ホテル到着

富永航平

希望で宇宙工学の授業を聴講した。当然だが、あまりにも専門的な単語や難しい式が出てきて何もわからなかった。図書館では翌々日に控えたプレゼン発表の原稿の作成を手伝ってもらった。この時点では6割程度の完成度。授業後はグループメンバーと近くの山にハイキングに行った！メンバーの一人が馬を飼っており、人生で始めて乗馬を経験した。あまりにも下手すぎて一度落馬したが…。映画に出てくるようなのどかなアメリカらしい広大な平原が広がっていたので感動した。夕方は、メンバー宅でカレーパーティー。スムーズなども出てきて本当においしく、ハイキングに疲れた私の体を十分に元気づけてくれた。

9/15 (火)

- 8 :30 学内到着
- 9 :00 図書館で発表の準備
- 12:00 昼食
- 15:00 ショッピング
- 17:00 会議

次の日の発表で使う原稿のチェックを PSU 生にしてもらった。プレゼンテーション用のパワーポイントも作成した。ホテルに帰る途中に PSU ロゴ入りの T シャツやトレーナーを購入した。

9/16 (水)

論文発表日

- 10:00 学校に到着、 図書館で PSU 生に論文の最終確認をお願いする
- 12:00 メキシカン料理へ、デザートに30年の歴史をもつアイスクリーム店
- 14:00 PSU 生と図書館へ
- 17:00 発表
- 18:30 お別れ会
- 20:00 ジムで PSU 生とスポーツ

論文発表はとても緊張したが、PSU 生のサポートもあり、安心して発表できた。皆それぞれ個性あふれるプレゼンで、とても興味深かった。

9/17 (木)

ワシントンへ

- 8 :00 ホテルチェックアウト
- 9 :00 写真撮影
- 16:00 PSU 生と最後の食事
- 18:30 ワシントンへ出発
- 20:25 ワシントン着

わくわくのワシントン研修だったが、その前のお世話になった PSU 生とのお別れが辛かった。

9/18 (金)

- 9 :00 駐米日本大使館訪問、佐々江賢一郎駐米大使と1時間強面談
- 12:00 スパイ博物館
- 16:00 ユニオン駅へ
- 18:00 山越日本経団連事務所長と面談

9/19 (土)

- 8:00 ワシントン研修
 - ・リンカーン記念堂
 - ・ホワイトハウス
 - ・アーリントン墓地
 - ・宇宙航空博物館
- 21:00 研修お疲れ様会

日本人運転手から解説していただき、ワシントンについて知ることができた。

9/20 (日) 13 : 00 ワシントン・ダレス国際空港発

9/21 (月) 16 : 00 成田空港着

Means of Communication in PSU

団長 富永 航平

今回のペンシルベニア州立大学での交流事業を通じて私たちは人生の中でも非常に珍しい経験をさせていただきました。海外の大学へ行き、その学生と深くコミュニケーションをとることは、全国の大学生の中でも経験したことがない人がほとんどでしょう。私たちは今回の研修に参加できたことを誇りに思います。

留学を志すのはどんな学生なのか。一番気になっていたのはそこでした。「何か新しいことにチャレンジしたい」、そう思う人が多く海外への留学を目指すのだと今回のメンバーを見て感じました。

英語を話してみたい。外国の文化を知りたい。外国人の友達が欲しい。

目標は様々でしょうが、皆チャレンジしたいという意気込みを感じさせました。そのような向上心あふれるメンバーとそれぞれの目標に向かって頑張ることができたこの2週間はそれだけで非常に有意義な時間と言えます。

研修を通して、PSU でかけがえのない友人ができました。その出会いがこれまでの英語を「コミュニケーションとしての英語」という新たな意味を与えてくれました。授業で習っているだけでは感じないこと。それを得ることができたことを非常に嬉しく思います。研修を終えた今でもしばしばその PSU 生とは連絡を取り続けています。

コミュニケーションに不安を抱いていたのは皆同じでしたが、お互いの様子を知ることと共に頑張ろうとなるのはこの研修ならではの経験です。あまり話せなくて落ち込んだときも、言葉がわからなくて苦勞し、食事をしている時でも積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿をよく見かけました。考えながらのコミュニケーションは本当に私たちの英語能力の向上に貢献してくれました。研修を終えるころには皆英語能力が向上したと話していたほどです。

今回の研修の企画・協力していただいた諸先生方、PSU の滞在中でお世話になったホストメンバーには感謝をしてもしきれません。このようなすばらしい留学の機会を設けていただき本当にありがとうございました。茨城大学の参加メンバーを代表と致しまして、古賀先生をはじめとする諸先生方に厚く御礼を申し上げます。2週間という短い期間ではありましたがこの研修はメンバー全員が、今後の人生の中で思い返すような大切な思い出になりました。

そして最後に。今回のプログラムを共にしたメンバーに感謝を伝えたいと思います。メンバー全員で作り上げた研修でした。こんなに楽しく過ごせたことは全員のおかげです。本当にありがとうございました。

PSU 生の声

Incredible Experience

During this two-week program, I was very fortunate to be able to host the Ibaraki Students around Penn State's campus. Not only was it a great time, but also in just two short weeks I became very close friends with some of the students, and I learned so much from them. It was truly an unforgettable experience, and will be one of the highlights of my time at Penn State.

Currently, I am studying Japanese at Penn State and will be studying abroad at Ibaraki next semester. Before this Independent Study, I thought that I had known a lot about Japanese culture, people, and student life. However, through my interactions with the students I realized that there was so much more to learn. No matter how much I read about the culture or researched statistics about students, the real learning came from my interactions and conversations with the Ibaraki students I met.

To have had this opportunity before I study abroad in Japan was a great relief. Many of the Ibaraki students wanted to practice their English, but it also gave those of us studying Japanese a chance to speak with native speakers outside of the classroom. I was able to make friends and connections that will be helpful while I am at Ibaraki, as well as lifetime friendships that I will never forget. I can't wait for my study abroad term to begin so that I can see everyone again, and I hope that many more Ibaraki students come to visit Penn State!

Getting to know Ibaraki Student

The first day I met our Ibaraki student. She was a very outgoing and nice person. I could already tell that our group was very fortunate to have her. Even though she just arrived in America, she was excited about the color run just as much as I was. From that point on out, she and my group shared many moments in many events. I enjoyed my time with my student. It was thanks to her that I am inspired to understand the Japanese culture.

I can tell she is a hard working person and tries her best in everything. Even though she is really good at her English there are times where she had trouble understanding or saying something in English. I gladly helped her with her English. Sometimes when I don't know how to say something in Japanese, she is there to help me. I learned a lot of new Japanese words thanks to her.

I have come to understand that Japanese students are almost like Penn State students in some ways. When the Japanese student and her other classmates played basketball with other Penn state students, it showed me how we all are similar and that we can all get along very well. I think this was the most fun she had because she was we all enjoyed playing together.

She was very happy to be here in America doing things we Penn State students enjoy doing most. I was happy with how everything worked out and with my group members we were able to take her to do things like ice skating, playing basketball, eating American food, and sightseeing all over the campus. She had a wonderful personality and not a single moment was I ever bored with her. Her appearing in Penn State meant a lot to me and my other group members. We created many good memories and shared a lot of good time together, it will be something I will never forget.

貴重な体験ばかりの研修

鈴木里沙

研修に参加し、日本では体験することの出来ない異文化に触れて大きな影響を受けました。以前から外国の文化に関心があり、本や人伝に聞く外国の話には興味津々たるものがありました。そのため今まで話に聞いていた場所に訪れたり、外国人の友達が出来たりしたことで遠い外国が一気に身近に感じるようになりました。

初の海外だったので空港に到着してからずっとワクワクが止まりませんでした。初日はホテルの近くの Subway に行きサンドイッチを食べました。英語での注文は、発音が上手くないのか、通じず、店員さんとのやりとりが上手くつかめなかったりして大変でした。

2日目からは PSU 生がホストメンバーとして茨大生 1 人につき約 4 人ずつついて活動をサポートしてくれました。私のホストメンバーは全員女性で 4 人中 3 人はアメリカ人の学生、ひとは中国からの留学生でした。うち、ひとりの学生を除いて、日本語クラスを受講している学生でした。

日本のアニメが好きで日本に興味を持った学生、日本のアイドルである“嵐”が好きな学生、母親が日本人の学生。慣れない環境に緊張していた私に皆が親切でした。

PSU の新学期が始まり慌ただしい中にもかかわらずメンバーが交代でキャンパス内外を案内してくれました。メンバーとは短期間にも拘らずとても良い友達になれました。

日本文化の講義では、英語で歌舞伎についての講義を受け、米大学の授業で日本が取り上げられていることに驚きました。大学院生が講義する心理学の授業ではスタート早々、先生が「今日は外でやろう！」と提案し、全員が急きょ外の芝生に移動し、講義が始まりました。これには、とても自由な雰囲気を感じました。

PSU には HUB という本屋、フードコート、部室などが集まった棟があり、そこには沢山の学生が集まっていました。学生が食事をしたり勉強したり、くつろげる空間が出来ていました。学生数も多く学費も高いと聞きましたが、学校の施設が非常に快適でどこでも勉強しやすい環境が大変魅力的でした。

PSU には多くの中国人の留学生がいました。アパートに誘ってくれ、4 人の中国人留学生でルームシェアをしていて皆仲の良い友達だと紹介してくれました。ホストメンバーともそうでしたが、上手く英語を使えないでいると日本語で言い換えて意思疎通を図ってくれました。

アパートでは英語だけでなく日本語や中国語で会話を楽しみました。まさか米国で、たくさん中国人とこんなに仲良くなると思わなかったのでとても嬉しかったです。NY やワシントンで体験したことも貴重でした。この事業に協力して頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

行ってよかった

富永航平

留学なんてなかなか行く気にならない。普通はそう考えるのではないのでしょうか。私もその一人でした。

留学する学生は、皆やる気に満ち溢れた人ばかり。だから行く気がしない。初めは行くか行かないかとても悩んでいました。しかし、学生のうちにしか経験できないこと。とりあえず行ってみるか。そう考えて、決断しました。

多大な費用をかけて行くのだからちゃんとしたほうがいい。それはその通りです。しかし、なんとなく海外に行ってみてもいいのではないのでしょうか。行ってみることで何かが見つかるかもしれません。

そんな安易な考えで始まった研修でしたが、終えてしみじみと感じたことは言葉が通じなくてもコミュニケーションはとることができるということでした。

私の趣味はマジックです。マジックサークルで日々練習していたことが留学に役立つのか。役立つという発想はありませんでしたが、そんなサークルで培った技術はアメリカで言葉がわからないとき、一緒に盛り上がるために非常に役立ちました。

別の目的で頑張っていたものが意外と別の場面で役に立つということ。自分が頑張っていたことはどこかで役に立つのだと知りました。ほかのメンバーも、ダンスのサークルの茨大生はダンスと一緒に踊ってコミュニケーションをとっていました。コミュニケーションを取る方法は一つではありません。得手不得手もあります。でも、自分なりのコミュニケーションならとることができるのだと母国語が通じないアメリカならではの体験をすることができました。

「芸は人を助ける」そう聞きますが、それを実感させられた今回の研修でした。現地で多くの人と交流し、たくさんの意見と価値観をもらいました。PSUに留学中の日本人と話をし、長期間の留学というものがどういう影響を与えるのかを感じることもできました。

留学はなんとなく、の始まりでしたが、結果を見てみると外国の友人ができ、英語力も向上しました。言葉があまり通じなくても仲良くなれることが分かったのが一番でした。

今でもラインが突然、送られてきます。この間は、英語で恋愛相談を受けました。授業などで使う英語ではあまり使わないような内容を送るのは難しいですが、留学が終わった後でも英語には触れる機会が増えました。英語の力を向上させるにはとても効果的だとも感じます。

そんな友人ができたのもなんとなくこの留学に行こうと決めたおかげです。あの時行ってよかったな。今ではそう思います。

研修前からコンタクトがとれていたなら

篠原はるな

研修を通して最も印象に残ったことは、言葉を学ぶためには会話しなければならないということです。文法やリスニングだけ覚えてもダメ。PSU 生が日常生活で日本語、英語を話しているのを見て、学習の姿勢を改めなければと痛感した。

・大学にて

ホストグループのメンバーが履修している様々な授業を見学した。音楽、物理、心理学、ジャーナリズム論など今まで取ったことのない科目もあった。もちろん英語はほとんど分からず、内容の理解には程遠かったが、意外な発見をした。実は、文系の私が一番理解できた科目が物理だったのである。数学の記号は共通だったから理解したというのが理由だが、こうした機会に普段と違うことをすると別の視点から見えることを実感した。

心残りだったのは大学内を自由に散歩できなかつたことと、予定したアイススケートができなかつたことだ。最終日の英語での発表原稿が間に合わず予定が狂ってしまったためだ。やりたいことに優先順位をつけるべきだったということを実感した。

ホストの学生らも授業があつて忙しい。そのため、その都度やりたいことを伝えるという形になってしまった。また、研修の前に彼らとメールでコンタクトがとれていたなら、ということが悔やまれた。

・思い出話

交流で一番思い出に残ったのはホストの学生が自宅で主催したホームパーティーだ。中国の家庭料理を振る舞ってくれ、米国の学生も母親に頼んで作ってもらったパイを持ってきてくれた。

パイにはちょっとした話がある。ピクニックにそのパイを持って行ったときに砂糖の香りひかれてハチがたくさん寄ってきたことから「Bパイ」と名付けられたようだ。ホテルでは体験できない家庭の文化に触れることができ楽しかった。

・発表

論文を英訳して日本から持参したが、構成を変えたりしたため、前述したように少し時間がかかった。丁寧に文章の意味を確認したので原文に近いニュアンスで英訳できたと思う。発表時には簡単な言葉で短くしておく方がよいと反省した。

・NY 研修にて

地下鉄やセントラルパークで迷つたことや自由行動の難しさを学ぶということがあつたが協力して楽しく終えることができた。振り返ると全体の計画を各人が知って調べておく、天気などパターン別で考えるという 2 点は特に必要だと感じた。

強まった留学への気持ち

大曽根伊織

5月のPSU生の茨城大学訪問に参加し、交流を深め、多くの友達やとても楽しい思い出を作ることができた。彼らの滞在時間はとても短く感じ、お別れの時はとても寂しかった。

その後、PSU研修というプログラムが茨大にあることを知り、5月研修で仲良くなったPSU生との再会やアメリカ文化を楽しむため研修への参加を決めた。

実際にアメリカに行ってみて困ったことは、小銭である。日本と違って小さく、表面に何ドル、何セントのコインなのかははっきり表示されていない。コインを覚えることに苦労した。

表面に描かれている偉人達の顔と金額がなかなか一致しなかった。こんな私だったがホテルの飲物や軽食の自動販売機に通うことで克服することができた。販売機は、機械であり、時間をかけても不快な思いをさせることはない。自分のペースでコインと向き合うことができた。

コインを入れると投入金額が表示される仕組みになっており、自分で確認しながらできるので、コインの金額を覚えるには最適だった。また、貯まったコインを消費するためとても役にたった。

お店では、店員や後ろの客にせかされているような気がしてしまい、なかなかコインを使えずに、貯まる一方だった。販売機のお陰でコインの金額などを熟知し、ニューヨーク、ワシントンでは、小銭を買い物ができるようになった。アメリカで買い物をする際には、クレジットカードでの支払いが多い。現金で支払いをしなければいけないお店もあるため、コインの金額を覚えることも大切である。

研修を通して学んだのは、経験の大切さである。コインで苦労したが、何回も経験を積むことで、克服できた。研修では、地下鉄の乗り方や切符の買い方等初めてのことでわからないことがたくさんあった。メンバーに助けをもらいながら研修を楽しめた。

アメリカの生活で知っておかなければいけない基本的なことを覚えた。とても有意義な研修だった。一緒に参加したメンバーと助け合いながらたくさん体験をすることができたのもよい経験であり、この研修の魅力だった。PSU生とアメリカの大学生活を見学でき、留学を試みたいという気持ちが強くなった。この研修は、私の英語を学習するモチベーションにもなったのである。

人懐っこいリスに驚く

新井美穂

PSU の敷地は茨大とは比べようもないくらい大きく、建物の一つ一つはディズニーランドみたいに個性的だった。迷子こそならなかったが、道を覚えるまでにだいぶ苦労した。

地図があまりにも粗く、ほとんど意味がなかったからである。大学の建物には一つ一つ名前がついているのだが、パソコンでプリントアウトした地図にはそれが載っておらず、ホストがいないと移動ができなかった。

2階から入り1階から出るのが多く、同じ建物なのに外壁の装飾が異なっているものもあった。後日詳細な地図を手に入れたにもかかわらず、思いっきり通り過ぎてしまった。

講義はもちろん英語で、経済の授業以外はちんぷんかんぷん。聖徳太子を扱った授業では、人物しかわからず、それで内容を追っているだけだった。いかに限られた単語しか今まで使わずに過ごしてきたのかを痛感させられた。

ホストの学生らはとても親切で日本語がうまく、どうやって覚えたのかと聞いてみたら、ドラマで覚えたという答えが一番多かった。彼女たちにはステーキのレストランや、ワッフル・パンケーキ店などに連れて行ってもらい、アメリカの食文化を体験した。

値段が高いので、レストランで安く済ませたい場合は、ピザを1ピースだけ頼むのがいいというのを学んだ。メニューには一枚の値段が書いてある。だが、計算自体はピースごとなのでラッキーと思った。残すことが当たり前の文化なので、最初はもったいない精神が発動していたものの、胃が悲鳴を上げた、2日目くらいから朱に染まった。

最初に驚いたのがリスである。アメリカには日本のスズメと同じ感覚でそこら中にいて、割と人懐っこく、「チッチッチ」とこっちに寄って来た。とてもかわいい。思ったよりも大きかったのが意外だった。手乗りをさせるのは大変そうで両手でも難しそうな大きさだった。

生で英語に訳された漫画を見るという野望を叶えるために、購買部に連れて行ってもらった。ブースでは、日本のような揃え方はしておらず、1巻だけのものや巻数が飛んでいるものが目立った。ビニール包装されておらず、難なく立ち読みができた。

NARUTO よりも同じ JUMP 系料理のマンガの巻数が多く、個人的にはなんだかシュールだった。荒川弘の作品も割と人気のようにだった。

NY では、ホテルの前で、タクシーやバスの客引きを多く見かけた。面白いと思った。ステート・カレッジに戻る日曜日に折角なのでチーズケーキ屋に出かけたが、安息日のためか開店しておらずそのまま帰ることになったのは惜しかった。

ワシントンでは 20 ドル可能と表示されているのに、入れても吐き出した地下鉄の券売機があり、泣く泣く 1 ドルコインを入れた。10 ドル札以上のお札は持たない方がいいと痛感した。日本とは勝手が違い、思い通りにならないことも多かったが、工夫すればなんとかかなり、深刻に困るようなことはなかった。次に行くときはレポートとプレゼンの課題に追われることなく旅行がしたい。

人生で最も充実した 2 週間

鳥羽田杏奈

研修は私の人生で最も充実した 2 週間となった。Penn State に拠点をおき、ニューヨーク、ワシントンと経済・政治の両方の面から世界の中心アメリカを見ることができた。

ペンステートではホストメンバーなどの学生がとても親切にしてくれ、本当に嬉しかった。朝はホテルに迎えにきてくれて朝食から授業、放課後、休日まで生活のほとんどをサポートしてくれた。

中でも、研究発表の準備では本当にお世話になった。アンケートでも一緒についてサポートしてくれるほか、論文も正しい文法にすべて直してくれ、発音やイントネーションも指導してくれた。いざ発表となると持ち時間の 10 分を大きく超えてしまった。論文を読むことに集中してしまい、オーディエンスに対するアイコンタクトがまったくできていなかった。

これは、発表が英語であるか、オーディエンスが外国人であるかなどに関係なく、発表をする上でのこれからの課題である。ホストメンバーの全面的なサポートがあったのにも関わらず、満足のいく発表ができなかったことは少し残念に思った。

ペンステートの学生は、「親切にしてくれてありがとう」とお礼を伝えると「日本に滞在していたときは茨大生にお世話になったから」と皆が言っていた。研修を通して多くのことを学ぶことができたのも、数年間続いた研修を通してのペンステートと茨城大学の交流のおかげなのだと痛感した。交流が今後も続くことを願っている。

ニューヨーク研修の担当であったこともあり多くの経験と思い出ができた。一番大変だったのが地下鉄。英語がままならないこともあり周囲の人に質問しても失敗ばかりだった。治安の悪い駅に到着してしまったり、上りと下りを間違えてしまったり、特急に乗ってしまい到着すべき駅を通り過ぎてしまったりした。

その度に皆の助けを借りて何とか当初の計画通りの研修ができた。初めて地下鉄を利用してタイムズスクエアまで辿り着けたとき皆で感動したのが印象に残っている。

ワシントンでは、佐々江駐米大使や山越日本経団連ワシントン事務所長への表敬訪問が最も印象に残っている。面談では、アメリカからみた日本や世界の中の日本について知ることができた。国内で生活していると、日本からみたアメリカしか見えないことが多いので自分にとって新鮮な経験ができた。

さらに日米の違いだけでなく、世界共通のコミュニケーションをとる上で大切なことなど今後の人生に生かすべきお話をたくさん聞くことができた。

研修を終えて反省点がいくつもあるが、今後の大学生活での語学学習へのモチベーションや自分の将来に対して選択肢が広がったので今回研修に参加できたことを本当に嬉しく思っている。

大きな目標を発見

小杉山伸之

研修は、人生で最も濃密な 2 週間となった。多くの人との出会いや異文化との交流を通して自分なりに考えるきっかけになったからであり、そして何より大きな目標を見つけることが出来ました。

得た大きなものの一つは PSU の友達。PSU 生らは、茨大生を温かく迎え入れてくれ、昔からの友達であったかのように打ち解けて、気軽にいろんな話をし、様々な場所へ連れて行ってくれました。

不安な気持ちでいっぱいだった私にとって、その気軽な対応がとてもうれしく、緊張が解けるのに時間はあまりかかりませんでした。そして気がつけば、自分から拙い英語で質問している自分に少し驚きました。

もう一つ忘れられない出会いがありました。それは、PSU のダンスサークルの人たちと知り合ったことです。お世話をしてくれていたアイルランド人の友達に誘われ、ダンスサークルが練習している体育館へ行き、練習を見学しました。

見ているうちに一緒に踊りたくなり、「Can I dance together?」と勇気を振り絞り、声を掛けると、皆は笑顔で「Yes!」と快く受け入れてくれました。踊っている間は、言葉は違っていてもダンスという一つのツールでつながることが出来ると初めて実感しました。この感動は忘れられません。練習後に一緒に写真を撮り、握手を交わし、また踊ろうと約束しました。

研修の中で、異文化交流に対する考え方を大きく変えるきっかけになりました。強く感じた“異文化”は、「宗教」に対する考え方です。日本で暮らしていると、宗教と言われても、漠然としたイメージしか浮かばずどこか遠い存在のように感じます。

アメリカでは宗教がとても身近な存在です。例えば、「あそこはカトリック系の人が多いから少し怖い」という学生がいるなど、差別とまではいかないが、私たちが、外国人を見て、「アメリカ人」と考えるのと同様に、アメリカでは、人を見て、「カトリックだ」とか、宗教の観点で人を見る習慣が根付いていると思いました。このことは私にとって驚きであり、人種のサラダボウルと言われるアメリカならではの体験だと実感しました。

最後に、大きな目標を見つけました。それは、英語を使って世界の人と交渉を試みたい、そのためにもっと英語を話せるようになりたいと考えました。佐々江駐米大使との面談を通し、計り知れない緊張感の中で国を代表して様々な交渉をする大使やそのお付きの人たちがとてもかっこよく、自分もこうなりたいと強く思いました。あらためて研修に参加してよかったと思いました。

身が引き締まる貴重な体験

熊木萌樹

アメリカで初めて過ごしたこの 2 週間は一生心に残るものとなりました。異文化理解と英語に対するモチベーション、将来の職業についてなど多くの事を考えるきっかけとなり、私の中でいい意味での変化が起きた出来事の一つでした。

もとよりアメリカに行くこと、ましてやこの研修があることでさえ知らなかった私ですが、友達に誘われてただ留学するなら早めにとっていたので参加しました。心から「本当に行って良かった」と思っています。

初日、PSU 生で茨大生の世話係であるホストがホテルに迎えに。キャンパス内で開催された 5 キロのマラソン「The Color Run」というイベントに誘ってくれました。ポイント地点で色のついた粉を振りかけられ、スタートで真っ白の T シャツがゴールではカラフルに！ T シャツだけではなく髪の毛や脚まで色がついてホストと笑いあっていました。

学内がコースなので建物についてのホストの説明を聞きながら一緒に走りました。もちろん英語です。はじめ簡単な単語でしたが、聞き取れなくなるとほかの単語を使ってくれました。

ホストは近くのスケート場、鍾乳洞をボートでめぐるツアー、行きつけのワッフル屋さん、ショッピングモールなど多くのところへ案内してくれました。ハンバーガーを食べながら女友達のように恋愛について語り、時には姉のようにいろいろ教えてくれました。ゆっくりとしか話せなかったのですが、いつも笑顔で聞いてくれました。

楽しい一方で悔しい思いもしました。簡単な表現が出てこなかったり、単語の発音が正しくできずに伝わらなかったり、子どものような会話しかできなくて恥ずかしかったです。

私は高校時代に語学研修でオーストラリアにホームステイをしました。聞き取れなくて何度も聞き返したため会話が中断してしまうということがあり、その経験から今回は、うなずいてとりあえず会話の流れを止めずにいました。しかし、実際に会話を聞いていて内容がはっきりとわかることもあったのですが、あまりにも適当に返事をしすぎて「本当にわかったの？」と問い詰められてしまい、焦ったという失敗をしました。結果分からないことは分からないとはっきり言うことが大切だと思いました。

NY やワシントン D.C での研修はとても有意義でした。佐々江駐米大使や山越日本経団連ワシントン事務所長と面談できたことは、研修を意味のあるものとした要因の半分だといっても過言ではないと思います。経済と政治で日米をつなぐトップのお話は心に残りました。

情報の大切さ、第一印象の大切さ、改めて実感させられました。この 2 週間を思い出すたびに身が引き締まり、勉強やサークルなどでめげそうな時でも頑張れる、とても貴重な経験でした。

PSU 交流参加者アンケート

1、PSU との交流事業について

①何が一番良かったですか、2週間の研修を終えた所感を聞かせてください

- NY とワシントンという 2 大都市の観光ができたこと。米国の大きさを知り、宗教（キリスト教会）や街並みに多くの違いを感じた。
- 研修前、米国は物騒な場所が多く用心が必要であると思い込んでいたが、研修中、多くの人と出会うことで悪いイメージはなくなり、米国を大好きになっていた。
- 米国の学生と、プレゼンというひとつの目標に向かって一緒に取り組むことができた。言葉があまり通じず、心情を詳細に表現できなかった。にもかかわらず、お互いの仲が深まり日本に帰っても連絡を取り合うようになったことがよかった。
- プレゼンに向けての準備。PSU 生に一人ずつ声を掛けてアンケートができた、ホストメンバーによる、論文の文法のチェック、発音のチェックを受けたことで英語力の向上が実感できた。ホストメンバー以外の学生も相談に乗ってくれるなどプレゼンの準備を通して多くの PSU 生と充実した時間を過ごすことができた。
- 米国の授業を一緒に受けて日本の学生との積極性の違いを感じられたこと。
- リスなど、日本にはいない動物と触れ合える環境。
- PSU 生とのコミュニケーションで互いの考えや経験について教えあえたこと。
- 一番よかったのは、ネイティブの人と交流することができたこと。交流を通じて中国等の米国以外の文化を知ることができ、興味をもてこと。

②成果として何かありますか、いくつか挙げてください

- 英語の学び方で、何よりも話すこと、日常で使い続けることが重要だと知った。様々な言い回し、英語の言葉の選び方でネイティブに近づくことができたと思う。
- ネイティブの発音を聞き取れるようになった。会話ができるようになった。友達が出来た。英語をもっと頑張らないといけないと思えたこと。
- PSU の学生だけでなくメンバーとの仲が深まった。外国の文化との違いを知ることによって日本の良さを実感することができた。
- ①英語に耳が慣れたためか、帰国後に洋画を字幕なし、かつ英語で視聴した際研修前よりも内容理解ができるようになった。②ニューヨークからペンステートに帰ってからはじめに比べると英語が少しゆっくり聞こえるようになった気がした。
- 英語勉強に対する意識。ペンフレンドを作れたこと。米国の印象が変わった。
- 日常に必要な会話がそう難しいものではないと知れたこと。
- 怖いことは特に起こらず、明るい国民性に触れられたこと。
- 今まで知らなかったモノを知った。コミュニケーションを積極的に出来るようになった。字を読めない人の気持ちが分かった。
- 会話を聞き取れるようになった。自分から積極的に英語を話せるようになった。

米国の文化について知ることができた。(食文化、生活文化等)

③訪問前と訪問後の英語コミュニケーション能力はどうでしょうか、変わりましたか

- 発音は改善された。しかし、ネイティブの発音は早くて聞き取れないので普通に会話できるレベルまでは至っていない。
- 変わった。英語でコミュニケーションをすることへの恐怖心がなくなり、落ち着いて相手の言葉を聞き取り、言いたいことを伝えられるようになった。
- 英語で何かを伝えようという気持ちが強くなった。会話中もどのように英語で表現すればいいのか考えるようになった。コミュニケーションの内容も日を重ねるごとに広がっていった。
- はじめは質問の意味を理解し、返答することで精一杯。話し方や雰囲気慣れ、脳内で一字一句翻訳することがなくなったので会話を楽しむことができるようになった。自然に Hi, Thank you, Sorry などの日常的な挨拶ができるようになった。
- しゃべれなくても何度も挑戦したり、英語を話すことに億劫にならなくなった。
- 語彙数が増えたとかそういったことはないが、日本との対応の違いにいかにか順応するかが問われていたので、そういう意味では良くなったと思われる。
- 変わった。
- 聞き取りの能力が訪問前より向上した。

④積極性、チャレンジ精神が身に付きましたか

- 身に付いたと思う。この機会しかない！と思うとたくさんのことをして、グループメンバーに計画を立ててもらった時に相談できた。
- はい。自分から質問し、見知らぬ人に道を尋ねることが出来るようになった。
- 米国の積極性に促されて自分も積極的になった。
- 身に付いた。PSU 生が授業で先生のレクチャーを丸のみするのではなく、考え、疑問があればぶつける姿勢をみて授業では質問をするようにチャレンジした。
- はい。
- 行く前よりは身についた。
- 身についた。
- 買い物の際店員に話しかけたり、困ったことがあったら話しかけて教えてもらうなど、自分から積極的に動くことができるようになった。

⑤グローバル化や国際交流に対する考え方は変わりましたか、海外で働きたいですか

- 中国系の人がとても多く、中国語は使用人口が多いから英語と同じくらい便利だという話に納得した。海外で働きたいとまでは思わなかった。
- 日本以外の国を知ることで、改めて日本について考えるきっかけが出来、日本のいいところだけでなく他国を見習うべきところにも気づくことが出来た。考えたことはなかったが、海外で働くという選択肢を良いと思うようになった。
- 国際交流はさまざまな文化や価値観の違いを考えなければならないのだと実感し

た。日本でのジェンダーというものは米国ではほとんどなかった。海外で働くことの大変さを知ったため、日本のために働きたいという気持ちが強まった。

- 地方公務員志望だったが、他言語を使って様々な人と交流し、自分が深まったと感じたためもっと多くの人々と交流できる職業に就きたいと考えた。PSU 生の皆が中国語で会話しているのをみて中国語を勉強したいと考えるようになった。
- はい。ワシントンを観光した際にバスツアーに参加したのですが、あのような仕事があることを知れて良かった。
- 高校時代の先生が言っていた、「国同士の仲が悪くても、人同士だとそうでもない。むしろ良かったりする」という言葉を再認識した。私は将来就きたい仕事上海外に行くことはあるかもしれないが、基本的には日本で働きたい。
- 海外には良い面も悪い面もあると今回の研修で実感した。国際交流はもっと身近なものになってほしいが、その分日本人はもっと自国の文化を大切にしておくべきだと思った。海外で働きたいかといえばどちらでもない。
- この研修を通して多くの人と関わることができ、日本との文化や生活習慣の違いについて知ることが多々あり、国際交流の楽しさを感じることができた。今後も積極的に国際交流していきたい。

⑥海外留学についての今後の抱負を聞かせてくださいか

- 長期のつもりはないが、英国へ行って英国英語を学んでみたい。
- 次は1カ月行きたい。
- 時間があればほかの国にも行ってみたい。
- 海外留学は資金がないのでできないが、PSU 生が教えてくれた WWOOF のワーキングホリデーなどを利用して大学在学中にぜひもう一度海外経験をしたい。
- 来年はスペインへ語学研修に行くつもり。そのうえでまた PSU に3学年時に留学するか決めたい。
- 次はマギルに行きたい。
- さらに英語の力をつけてもっと自由に英語を使えるようになり、今回の研修で出来た友達とより濃いコミュニケーションを取れるようになりたい。
- この研修で米国の大学生の学生生活や勉強の様子を見て、海外留学がどんな感じなのかを知ることができた。語学力向上のため大学在学中に留学したい。

⑦2週間の交流で、自信がついたと思います、何に対する自信でしょうか

- 最後までやり遂げることにに対する自信。自分が納得できるところまでやり遂げることは今までも目標としてきた。今回、レポートや NY 研修の予定など期限内に終わられるか不安だったが、無事にできた。これが目標の達成感と自信となった。
- 英語で論文を発表し、自分の論文や英文の書き方、スピーチの自身がついた。
- 英語がうまく話せないとしても伝えようとするだけで十分コミュニケーションはとれるのだと自分の英語での会話に少し自信がついた。

- 自分の順応力。積極性。
- これから、どんな人とも話すことができるという自信。
- 英語でそこそこ意思疎通が可能であること。
- 2週間のなかで、1人で買い物しなければならなかった。茨大のメンバー達だけで NY やワシントン DC を巡ったりしたことによって、自分に対して自信がついた。
- 英語に自身がついた。以前は文法を気にして話すことに抵抗があったが、文法が多少間違っても伝わるし、伝えようとする意思が大切だということに気づいた。

⑧英文のレポートを執筆し、英語で発表しました、いかがでしたか、聞かせてください。

- 最初は自分の未熟な英語を見せることが恥ずかしかった。でも、文法は良く学んでいると褒めてくれたり、様々な言い回しを考えてくれるうちに楽しく思えた。1000字の英文は初めてだったが、自信を持って発表できた。
- スピーチはとても緊張したが、向こうの学生の反応がとてもよかったので楽しくできた。言語は違っても、伝えようとする気持ちが大切だと実感しました。
- 英語でのレポートを書くことは大変だったが、PSU の学生の十分なサポートがあったために、そこまで苦労はしなかった。発表のときには、できるだけ伝えようと発音よりもどのように表現するかを考えるようになった。
- レポート執筆に際して茨大生、PSU 生に行ったアンケート調査で日本の学生とアメリカの学生の考え方の違いを感じることができて興味深かった。
- 準備はたいへんでしたが、結局でできたので誰でもやればできると思います。しかし、発表の際にやはり前を見てしっかり発表出来なかったのが悔しかったです。
- 案ずるより産むがやすしといった感じであった。発表するときは自分がノリノリで楽しまなければならないと感じた。
- 英語の単語や文法を学んできていても、ネイティブの感覚が完全に分かることはまだまだ先だと感じた。原稿を英訳するのは難しかったが、発表の後スピーチをグループメンバー達に褒めてもらえて嬉しかった。
- とても緊張したがとてもいい経験になった。プレゼンの経験があまりなかったこともあり、納得のいくプレゼンができず課題が多く残った。他の人のプレゼンを見て勉強するところが多くあった。

⑨自分に対して残った課題はありますか。

- 英語の語彙や論理力が今の自分に足りなかったなので、この二つを改善したい。
- 英単語をもっと覚える。
- 自分の意見を強く言うことができなかったので、向こうの学生に流されてしまうことがあった。自分の意見を言うようにすべきだと感じた。
- 発表の時間配分ができなかったこと、まったくオーディエンスを見ていなかったことなど発表に関しては反省すべき点が非常に多かった。
- 英語の会話文や単語が出てこなかったなので、普段から日本語から英語に変える練

習をしようと思います。

- 体力。
- グループメンバーたちが普通のスピードで英語を話していたとき、私には早すぎて全ての内容を読み取れなかったこと。
- 語彙の少なさによって、自分の伝えたいことを伝えられなかったりしたので、単語の数を増やしたいと思った。また、今回の研修で自分はアウトプットが苦手だと気づいた。

⑩先方の支援体制（ホテル、奨学金、サポート体制など）などで注文がありますか、先方に伝えます

- ペンシルベニア滞在先のホテル情報をもっと早く知りたかった。現地でホテル代を支払うのは負担が大きかったので事前にホテルの住所、総料金、地図の一覧がほしいと思った。そして提出する書類の一覧も欲しかった。
- なし。
- できるだけ早めに Wi-fi は使えるようにしないと学内で連絡が取れなかった。
- 無いです。
- 料金関係は確実なものを事前に用意していただけると助かります。
- デイズインを含む PSU の周り、大学の建物の名前が記載されている詳細な地図をもらえるとありがたかった。最終日の日本語会話の授業の連絡を日程が決まった時点で教えてほしかった。希望していた心理学の授業に行けなかったこと。他は満足している。
- 負担金額が減ると良い。

⑪プログラム自体に対する注文があれば書いてください、来年に生かします

- 9月研修の準備期間が短かった。先生の数を増やすべきだと思います。国際戦略室の先生もミーティングに参加するとか。
- ホテル代を払わなければいけない場合、クレジットカードも作ることを徹底させたほうが良いと思います。
- 特になし。
- 無いです。
- 日本人があちらにお礼できる出し物があると良いと思います。
- ホテルの支払いの明確化。
- 出来ればもう少し長く居たかった。

2、ニューヨーク研修

①訪問先で、良かったところを順にあげてください、研修は。楽しめましたか

- 有名どころをたくさん見られて満足した。
- 自由の女神、エンパイアステイトビルの夜景、ブルックリンブリッジ、マンハッタン、楽しめました。

- 自由の女神、エンパイアステートビル、タイムズスクエア、楽しめました。
- エンパイアステートビル、ブルックリンブリッジ、自由の女神像、アメリカ自然史博物館、セントラルパーク。
- はい。自由の女神とエンパイアからのけしきが素敵でした。
- メトロポリタン、自然史博物館、自由の女神、ブロードウェイ、五番街、エンパイア。楽しかった。公園で迷子になった時に道案内をしてくれたおじいさんがとても印象的だった。
- メトロポリタン、自由の女神、タイムズスクエア、エンパイアステート、セントラルパーク、楽しめた。
- 自由の女神、マンハッタンを外から見ることができ、建物の多さに驚いた。

②米文化について、新しい発見はありましたか

- 公園やベンチが多く、どこでも軽食、休憩をとる場所があった。
- お店で買い物をした後などに、「have a good day」「you too」などのやり取りがとてもいい習慣だと思った。
- 大道芸が思っていた以上に盛んでした。
- 店の店員がよくコミュニケーションを取ってくる。商品の売買だけでなくそこにコミュニケーションが存在することで笑顔になれる。そこに米文化の良さを感じた。
- 店のスタッフがお客様に対して丁寧では、ない。
- ビルが独創的。お金をかけるところを間違っているのでは？ と思う場面がちらほらあった。
- パフォーマンスが多い。チップを目的に観光客に近づく人が多い。
- どのお店でも店員さんが話しかけてくれることに驚いた。

③研修自体について注文や意見がありますか、来年の参考にします

- 研修予定と地図を全員で割り振ったほうが良いかもしれない。
- お金でもめないように出発前にしっかりと説明したほうが良いと思います。
- ホテル代などの旅費はできるだけ先に払っておきたかったです。
- メガバスにスーツケースが積めないことを研修前に通告しておいてほしい。1ドルショップへはチェックインをしてからが良いと思われる。
- とてもよかった。

3、ワシントン DC 研修

①訪問先でよかったところを順にあげてください、研修は、楽しめましたか

- ホワイトハウスや大使館街など政治要所に行けてわくわくした。世界史の復習ができた。
- spy 博物館、日本大使館。楽しめました。

- 日本大使館、ホワイトハウス、スミソニアン航空宇宙博物館
- 日本大使館、リンカーン、ホワイトハウス
- リンカーン記念博物館
- スパイ博物館、駐米大使との面会、経団連の事務所長との夕食、キング牧師の像、硫黄島の旗を立てるアメリカ兵の像、カップケーキ。楽しかった。最終日前夜にパーティーをやって盛り上がった。
- スパイ博物館、バージニア州での墓地、日本大使館。
- バスツアーで観光したと場所はすべてよかった。米国の歴史を知ることができ、人種差別の問題について考えることができた。

②米文化について、新しい発見がありましたか

- 土地あってこそその土葬だと思った。
- 見知らぬ人とでも積極的に話しかけ、コミュニケーションをとっていた。意外にホームレスなどが多く、治安の悪さなど、負の部分も知ることができた。
- 政治に関する関心が非常に高い。
- チップがあること
- モニュメントの数が異様に多い。20ドル札が使えると書いてあるのに使えない電車の券売機。
- カップケーキ屋さんでケーキを購入した。大行列だった。

③注文や意見がありますか、来年の参考にします

- もっていく金額をできるだけ明確にしてほしい。
- なし。経団連の方との面談をもう少し短くしてほしい。

4、これ以外で何かあれば、聞かせてください。

- 日本大使との対談が自分にとって大変貴重な体験になった。
- 引率の事務方が米国に着いた時から、前を歩いていることが多いことが気になった。常に一番後ろで生徒の数を確認するものだと思っていたので、正直驚いた。
- アメリカの緑茶は甘いと初めて知った。

(以上)

5月研修でのPSU生のアンケート

Q. Your stay in Mito and communications with students

- ①It was very fun. I talked of one thing and another with students, and I knew new aspects of Japan
- ②It was one of my favorite parts of the trip. Before coming over to Japan I was very nervous because I did not know much Japanese, but the students were very good at speaking English and tried very hard to communicate with me. I really enjoyed talking with the students and really getting to know them and learn more about Japan. I also enjoyed Mito more than Tokyo because it just seemed more inviting, likely because of how welcoming Ibaraki University was.
- ③My stay in Mito was a wonderful experience that I will remember for the rest of my life, and all my communications with Ibaraki students were meaningful, challenging, and incredible. I wish I had time to study abroad at your university! All of you made us feel so welcome and I will never forget that.
- ④I absolutely loved my stay in Mito, and the communications I had with the students. Having a first hand experience with being actually in Japan is something that a textbook couldn't teach someone. Being able to be immersed in the culture is something that I will always remember.
- ⑤My stay at Ibaraki University was one I will never forget. Everyone was really nice and I felt at home. I really hope to come back again one day. Getting to meet so many of the students was a great experience. The city of Mito is beautiful and I miss being there so much.
- ⑥I enjoyed my stay in Mito and communicating with the Ibaraki University students. When communicating with the students, we would talk about our interests as well as our impressions on Japan and was very interesting.
- ⑦I could see life of Japanese middle city at Mito. Because both of Ibadai and PSU students do something, I (=leader) had too much time on one's hands. But it was fun to wander by myself. I didn't have very much time to talk with Ibadai student, but they always replied honestly and comfortably. So I feel friendly to them.

Q. Lectures by Ibaraki University professors.

- ① I learned a lot of things from professors but I think the lectures were a little long. Professor Fu's lecture was interesting. In America, racial prejudice is one of serious social problem. It was informative because she explained by using example about racial problem in Japan.
- ② I thought the lectures were very nice. My favorite lecture was the one on the foreigners being kicked out of the Onsen. I thought that lecture was very informative and I learned something I didn't know. America faces similar issues so it was interesting to see it from a different angle in a different country. We were actually asked to leave a restaurant in Tokyo for being foreigners so I was grateful that I knew about it before it happened.
- ③ The lectures were both informative and interesting (for me). I cannot remember the professor's name, but the history lecture was my favorite because my major is Japanese history. My second favorite was the lecture on Japan as a multi-cultural society.
- ④ All of the lectures done at the university were extremely well done. All four of them were very informative and had the right amount of comparison between Japan and America. My favorite of the four lectures was the primer on Japanese language. I enjoyed it because it was a helpful reminder for me as I am studying the language.
- ⑤ I enjoyed getting to listen to the many lectures that were presented. Unfortunately I can not remember names, but the lecture which was the best to me was the one which talked about international policies throughout Japan's history, such as not allowing anyone except Japanese people into public Onsens. I found that very interesting to me.
- ⑥ They were all very helpful. I particularly enjoyed Professor Fu's lecture owing to the subject matter.
- ⑦ The lectures by the Ibaraki University professors were interesting and hit multiple points of interests on Japan. Between the lectures by the professors, I found the lecture on racial discrimination by Professor Tsuke most interesting. This is because the open discrimination that was being shown was surprising for its time period, such as the one at the soccer game.

⑧I took three lectures (excluding professor Fu's lecture). The most interesting lecture was the lecture about placement of Japan in the modern era Asia. PSU students included Chinese, so I was afraid what the student should think when the student heard Japanese's idea which despise China. To think such thing objectively is informative. I think that presentation to encourage to study at Ibaraki University was a little irrelevant, because many students didn't think to study abroad there. Speaking about the lecture about linguistics, I think the number of students who were interested in language was short.

Q. Field trip.

①It was very fun. My favorite was Kairakuen. I was really glad because I'm interested in building of ancient Japan.

②The field trip was really fun, I really enjoyed visiting the shrine, but I think my favorite part was going to the mall. It was fun to walk around and shop with the students doing something I would do in America and seeing how different the experience was in Japan.

③The trip to the mall was my favorite because we got to go to a mall unlike any in the United States, and got to see many Japanese stores. My second favorite was the trip to the Inari Jinja because of its historical and spiritual significance and further chance to get to know IbaDai Students.

④It was awesome. My favorite place we visited was the mall, because I think it encompasses the true culture of modern Japan. We were able to gain an insight into the current trends and traditions that occur while we were there briefly, and it was interesting to compare and contrast between malls in Japan and malls in America.

⑤I loved the field trip. I have always been a person who likes to explore and see new things, and going to the park was definitely my favorite. The greenery was magnificent and the old traditional tatami-filled building was quite interesting. One of the best parts to me about the field trip was not only exploring the three places, but exploring them with the other Ibaraki students. That time allowed me to see new things, but also meet new people and hear about their lives.

- ⑥ It was very fun, I particularly enjoyed the time at Kairakuen. The scenery at Kairakuen was extremely nice and the history of the Kobuntei left an impression. The view from inside the Kobuntei was particularly nice especially at the top of the building where a large part of the park is in view as well as the Senba Lake.
- ⑦ I wish we could have had plenty of time to see Kairakuen and Kobuntei. The students stopped to observe because everything was novel for them. I enjoyed the mall, too. The Kasama Shrine was good. The shrine was not very crowded (because it was weekday?). Speaking about Kasamayaki, if we could not only buy souvenir but also see people who work, it might be fun.

Q. Regarding your cooking experience.

- ① I wished cooking at the class when I watched such scene in Anime. I was glad to be able to take the class of cooking.
- ② I had a good time cooking. The students helped a lot and made sure we made delicious food. It was even better when we got to share it with them. I really enjoyed seeing how to cook some traditional Japanese food.
- ③ The class was informative, fun, and delicious! An English copy of the cooking directions would have let the American students do more, but it was fun regardless.
- ④ I loved the cooking portion of the stay at the university! We were able to have some hands on experience with Japanese cooking, as well as work directly with the Japanese students in helping prepare the food. It was so much fun!
- ⑤ Cooking was fantastic! I am not the best cook, but the students were extremely helpful! The food tasted great (just like all of the food I had in Japan). I loved Japan's food so much, that I even did my presentation on food. You might remember it!
- ⑥ Fascinating to see the class facility and to watch everyone working together.
- ⑦ The cooking class was very fun and enjoyable as I also have a hobby with cooking. I particularly enjoyed learning how to make miso soup as well as tamagoyaki.

Q. Campus tour on the first day of the program

- ① It was hot, but I think the tour was good because I could talk with students.
- ② The tour was nice. It gave me a feel for the campus and made it easier to navigate later, I liked seeing the clubrooms and the magic show was fun. I also really enjoyed visiting the shrine by the school.
- ③ Good (the campus is beautiful), but I felt that seeing the dorms would have helped those who want to study abroad make their choice.
- ④ The campus tour was very thorough and there was a lot to learn from such a beautiful campus. We were taken to the nearby shrine, and had the opportunity to view both the clubs and club rooms that were available to the students.
- ⑤ I enjoyed touring the campus. I got to see the campus lively with students and witness how it differed from my campus back home.
- ⑥ The campus tour on the first day was very informational as I was able to learn more about the campus and where things were.

Q. Homestay on weekend

- ① It was wonderful. I learned the depth of Japanese culture. I was thankful to host mother and father since they were kind to me.
- ② Yes, I loved it! The whole trip made me feel like I was a part of Japan not just a visitor, and this definitely helped with that. It was so fun to feel like a member of the family and to go around and do things with them, to really see what it is really like inside a Japanese home, it was definitely a valuable experience.
- ③ It was my favorite part of the entire eleven days we were in Japan! The Murayama family was lively, nice, and so welcoming. I still talk to Kazuki every few days and hope he can come visit me at Penn State soon.
- ④ The homestay was my favorite portion of the whole experience. Being accepted by a

Japanese family and building that sort of relationship is something I will never forget for the rest of my life. The next time I return to Japan, even if it's not to Ibaraki University, I would still like to see the Hasegawa family (My homestay family) again.

- ⑤ My homestay was amazing. I felt like I had lived with my family my whole life. They treated me like I was one of their own children; took me to a Hollyhock soccer game, AEON Mall, the Twin Ring Motegi Racecourse, and the Honda Collection Hall! They served me great homemade food and introduced me to some of their favorite restaurants (which are now also my favorite restaurants). I really hope I get to see Mr. and Mrs. Hasegawa again! I miss them like family!
- ⑥ Yes, the homestay on the weekend was very enjoyable and together with my homestay were able to do many things.

Q. Last day's farewell party

- ① Sushi was delicious! I will take a good care the souvenir I received.
- ② The farewell party was fun but sad. I made really good friends and was sad to say good bye, but I couldn't have asked for a better send off.
- ③ Really fun but also sad to say goodbye! Afterward, the Penn State students went with some IbaDai students to Karaoke and Dinner which was really fun.
- ④ It was a very nice sendoff and an extremely appreciated gesture. To be accepted by Ibaraki University in such a fashion was the ultimate showing of Japanese hospitality. I can not thank those involved enough in putting the party together for us.
- ⑤ The farewell party was a lot of fun! I got a bunch of stuff to take home as mementos of my stay, along with getting to eat tons of sushi. I also was told to try the sea urchin sushi. That was certainly a... unique experience! Needless to say, I now know that I do not really like sea urchin. Otherwise everything was fantastic!
- ⑥ It was an enjoyable end to a beneficial program.
- ⑦ The farewell party was enjoyable and we were able to end the stay at Mito with

smiles on our faces.

⑧The farewell party was indeed handmade by students. I was thankful.

Q. Hotel when you were staying in Mito.

①Great. The room was large and the breakfast was delicious.

②No the hotel in Mito was amazing! It was honestly the one of the nicest hotels I've ever stayed in. The rooms were very clean and had anything I needed, the hotel staff was also very kind and helped us whenever we needed it.

③None at all! I have never experienced such hospitality.

④There were no problems at all with the hotel we stayed at in Mito, in fact, the employees there were incredibly helpful when we approached them with problems about mistakes that we had.

⑤The hotel was absolutely beautiful. I felt like I was a king living in his palace. The employees were very nice and the breakfast served every morning was delicious. The beds were comfortable and the rooms were squeaky clean. I would not have minded staying there for a few more days!

⑥There were no problems with the hotel I was staying at in Mito and I believe it is the same for the other participants as well. The location of the hotel was very convenient as well as the convenience store was located at the first floor of the hotel. There were also many restaurants located near the hotel as well.

⑦The hotel was very comfortable. May the hotel be long-lived!

Q. Please tell me your opinions to make this program better.

①This program is good enough. How about trusting the schedule of next summer.

②The trip overall was very enjoyable and I definitely learned a lot. One thing I would encourage is maybe a little more explanation before the trip. Like the schedule in

English ahead a time. Also perhaps after you decide the groups for each student, make a way for the students communicate with each other before they meet. Other than that I thought the trip was wonderful and really enjoyed your hospitality thank you very much, I look forward to seeing you and Japanese students in the fall.

③ Maybe provide an optional “class” for people to learn more about studying abroad individually. Some students are truly interested and would love more help.

④ I honestly believe that the program is almost perfect, we had such a rich experience in a multitude of different Japanese cultural events and experiences. I would recommend a trip abroad like this to any of my peers. Truly, thank you very much!

⑤ Honestly, I was so taken aback by everything that it is hard for me to even say that there was anything wrong with the program. I am so unbelievably thankful for your and your staffs’ hard work at putting this program together. It was a life-changing experience. The only way I could see this program being more enjoyable is by going to more places like we did on the field trip and learning about historical events while at the famous sites. I really wanted to see Fujisan but I didn’t get the chance to unfortunately, so other people might like to do that too! Those things are just my personal opinions, otherwise, I loved everything which we did! Thank you so much for this wonderful experience!

⑥ I think that everything is just right as it is. The extensive participation of the Ibaraki University students made the program especially beneficial for the Penn State Students. Students seems especially to enjoy and benefit from the informal gatherings.

⑦ Perhaps there could be more time for the students to socialize with each other and learn more about each other. Other than this, I am unable to think of anything else that would possibly make this program better in anyway as the students did a lot for us and there is nothing more I could ask for.

⑧ It is desirable that there be one “theme” overall (it may be difficult when students who have various interests participate), and do the lectures, fieldwork, discussion, and interview based on the theme. Furthermore, it is desirable that the students ask Ibadai students’ help to decide individual theme (it may be difficult because both of students’ lack of language skill and insight). (End)

If you go to an uninhabited island, what do you take?

Nobuyuki KOSUGIYAMA

When you hear the word, “uninhabited island”, what kind of island do you imagine? First of all, please see this picture. This picture is one of the Japanese uninhabited islands, “tomogasima”. This island is the uninhabited island which resembles the Rapyuta’s view of the world. Rapyuta is a famous movie which represents Japan. I like the beautiful scenery and nature very much. Also, I like barbecuing and going camping in the beautiful scenery. I have a dream. The dream is living on this uninhabited island. On the uninhabited island I need to be self-sufficient, and I try to use my courage, but an uninhabited island is different from the rest of our country. There are no people there or tools. Now I have an interesting question. The question is: “if anyone goes to an uninhabited island, what do they take there?” Is it really the same throughout the world? Or is it different? I think it is different depending on the country. That’s because there are respective national characters in the respective countries, and the things one needs in case of an emergency are also different. Certainly, someone may think that even if a country is different, the people would need the same things just in case, but I think it’s different what someone needs and where someone puts emphasis depending on the person and the place where that person lives.

So I researched as follows. I gave a questionnaire that asked “if you go to an uninhabited island, what do you take there?” and seven PSU students, five international students in Ibaraki University, and ten Japanese students responded. I didn’t show the definition of an uninhabited island because I want to know if the image the respective person has for the uninhabited island is the same or different. During totaling the questionnaire I found a certain tendency. That tendency is as follows: Asian people first think “to survive” and the things they need to survive. On the other hand, European and American people think it’s necessary to survive, but it’s also important to have a good time there. To be concrete, in the answer of Asian people (Japanese students, Chinese international students, Korean students, polish international student) the most common answers were “survival knife” and “sleeping bag.” Japanese students answered that because a survival knife could have various uses, they need it. As for the sleeping bag, sleep is necessary to live, and they answered as expected. The international student from China also answered that because it’s possible to use a survival knife for various uses such as gathering food, getting the material for dwelling, as well as protecting oneself and getting a fire going. There are various uses for one tool. Like this, when Asian people think about the life in uninhabited island, they don’t first think about playing, first they think to survive. In short, I found that Asian people think

8人の論文

it's difficult to go to uninhabited island and live in. Moreover as a result of the questionnaire, I found that Asian people think that the uninhabited island has some fruits and plants which they can cook using the survival knife, and the climate of the island is relatively mild so one can sleep by sleeping bag.

Well then, how are European and American people? During totaling my questionnaire I had an interesting discovery. I found out that a way of thinking with Asian people is clearly different. For example, in the answer of European and American people there were few practical things such as survival knives and sleeping bags and so on. In the answer of those questions there were almost none of the same answers and everything was unique. I was impressed. In the answers, I will show you what I think is strongly different from Asian people's answer. The PSU student who is from Pennsylvania answered that he wants to take a hot air balloon to the uninhabited island. He said it's because he would like to see the beautiful scenery before he dies. This answer surprised me, because I don't think that I want to see the beautiful scenery when I think about going to the uninhabited island. Much more, I don't come to the idea of taking a hot air balloon and seeing the scene from the top. I think it is the answer which has a dream, and the way of thinking like this is wonderful. I think this student probably regarded going to the uninhabited island as a kind of travel and first he thinks about how he can enjoy himself. I found that because one other student answered that the book to enjoy himself is needed as much as the survival knife, European and American people think that it's also important to survive, but the most important thing is to enjoy the life of uninhabited island. Moreover, I found out that European and American people consider the uninhabited island to be resourceful just like Asian people think, in addition to the beautiful scene spread all over the island.

Like this, from the survey result I found out that what people take to uninhabited island is very different between Asian people and European and American people. But, why are they different? I think the difference of the national character is one of the big factors. According to the site, Platinum Date Blog by BrainPadn, in 1980 by G Hofstede Various national cultures (national character) were measured and indexed quantitatively. This is "the Hofstede Index". This makes the national character of each nation digitized. Also, according to "the Hofstede Index," concerning a strong tendency in the avoidance of uncertainty, Japan and Korea recorded higher scores than various European and American countries. In short, this index shows Japan and Korea tend to avoid thinking about uncertain things and are fond of thinking about practical things. Therefore, Asian people answered realistic and practical things such as survival knives or sleeping bags to avoid thinking about uncertain places like uninhabited island. But,

8人の論文

interestingly, in my questionnaire Chinese international students and PSU students from china answered practically, but in “the Hofstede Index”, the strength of a tendency to avoid uncertainty isn’t strong. In the field of Epicureanism or Stoicism, various countries of Europe and America recorded high scores, and I found they were Epicureans and Asian people were Stoics. Epicureanism is the way of thinking that seeking one’s own pleasure is good. For this, I think European and American people think about enjoyment first when they think about going to an uninhabited island.

I thought the way of thinking between Asian, European, and American people was different, but I was surprised that it’s even more different than I thought. Furthermore I was very stimulated by European and American people’s way of unique thinking and abundance of their imagination. I think it is not bad to think realistically and practically like Asian people, but if I can think uniquely like European people and American people, my life will be more abundant, and I can see different points of view. So I think I’d like to take a European and American way of thinking and be the person who can understand people’s various national ways of thinking, while keeping the Japanese and Asian way of thinking.

How students think about studying abroad

Risa SUZUKI

The topic of my presentation is how students think about studying abroad. The reason that I chose this topic is because I feel that studying abroad is close to me. Studying abroad is popular in Japan. Depending on the school, students are given the chance to experience cultural exchange programs like the one between Penn State and Ibaraki University. Others go to long-term study abroad and pay on their own. Ibaraki University is very enthusiastic about the international cultural exchange project and makes it easy for students to have these experiences. So I want to know how various students feel about studying abroad.

I gave the questionnaire to the international students at Ibaraki University and PSU Students.

These are the questions to the international students:

- ▶ 1. Why did you decide to go abroad to study?
- ▶ 2. Why did you choose this country?
- ▶ 3. Are you satisfied with studying abroad life?
- ▶ 4. Where do you want to visit in America (or Japan)?

These are the Question to PSU and Ibaraki University students:

- ▶ 1. Are you interested in studying abroad?

8人の論文

- ▶ 2. If you can, what countries do you want to go to study abroad?
- ▶ 3. Why do you choose that country?
- ▶ 4. If you can go to that country, what do you want to do? And where do you want to visit?
- ▶ 5. Where would you recommend visiting for the people who are studying abroad in America (or Japan)?

I think that going abroad makes people more well-rounded. I think the reason students choose a country is whether they are interested in that country, how safe the country is and what language its people speak.

First, I will talk about the international students of Ibaraki University. I looked at how many international students who study at Ibaraki University. There are two way come to University. One is government aid, and other is private expense. Including undergraduate and graduate students, there are 275 international students enrolled at Ibaraki University. The details are as follows. 84 Humanities students, 20 Science students, 18 Education students, 32 Agriculture students, and 121 Engineering students. Ibaraki University has total 8182 students, so the percentage of international students is about 3%.

International students come from 19 countries. 165 students come from China. 26 students come from Vietnam. 23 students come from Korea and Malaysia each, 7 students come from Afghanistan, 6 students come from Indonesia, 4 students come from Egypt, 4 students come from Taiwan, 3 students come from America and 3 students come from Thailand.

Seconds, these are the Ibaraki University international student's answers.

“Why did you decide to go to abroad to study and chose this country?”

- ▶ “I want to study Japanese culture”
- ▶ “To have new experiences”
- ▶ “To learn Japanese”
- ▶ “I have a scholarship”
- ▶ “To have experiences in another country”
- ▶ “I can only speak Japanese as a second language.”
- ▶ “I have family in Japan.”

These are the PSU international student's answers.

“Why did you decide to go to abroad to study and chose this country?”

- ▶ “To study English”
- ▶ “To see the world”
- ▶ “To have new experiences”

8人の論文

- ▶ “My country has not many good universities”
- ▶ “My country has a difficult college entrance exam”

These are the Ibaraki University international student’s answers.

“Is your life of studying abroad satisfactory?”

About 80% of foreign students answered “I’m satisfied” or “I’m a little satisfied.” The reason is “I’m having new experiences”, “I’m interested to live in Japan” and “Because my dream was realized.” But people who are not satisfied said “Because I don’t speak Japanese well.”

These are the PSU international student’s answers.

“Are you satisfied with life studying abroad?”

Their opinion is

▷YES

“I’m having new experiences”

“I’m interested in American culture. For example art, drama and stage arts.”

▷NO

“I like my home country”

These are the PSU and Ibaraki University student’s answers.

“Are you interested in studying abroad?”

The all PSU students who was asked by me answer “Yes.”

But the 60% Ibaraki students answer “Yes.”

These are the PSU and Ibaraki University student’s answers.

“What country do you want to go to studying abroad?”

72% of PSU students chose Japan to studying abroad.

14% of PSU students chose England and 14% chose Spain.

45% of Ibaraki University students chose America.

22% of Ibaraki University students chose Australia and Canada.

11% of Ibaraki University students chose France.

These are the Ibaraki University student’s answer.

“Why you choose that country?”

▷America

“Because the official language is English.”

“I want to learn about musicals.”

“I’m interested in American culture and I have a favorite movie actor who is American.”

▷CANADA

8人の論文

“I want to try Canadian food.”

“I heard Canada is comfortable.”

In conclusion PSU and Ibaraki University students had similar answers. My expected result is almost right. When thinking about study abroad, they are considering culture, safety and language. I made a lot of new experiences from this program, so I wish everyone who wants to go abroad can get a chance too.

About NINJA

Miho ARAI

NINJA is a name of an individual or a group which served daimyos and feudal lords or that seemed to espionage activities, sabotage, assassinations on them own. They were active from Kamakura era [1192] to Edo era [19C]. There are many types of NINJA, for example powerful local clans like Iga and Kohga, or gang of thugs.

The reason why I chose this topic, many Japanese books which introduced about foreigners speech and behavior such as “Nihonjin-no-siranai-nihongo: Japanese which Japanese people don't know” says foreigners have wrong view of Japan about cosplay, NINJA, etc. So I wanted to know how different between Japanese and foreigners view of NINJA and I searched about foreigners view of NINJA.

First, I introduce NARUTO, one of most popular comic books all over the world. This is a NINJA story. The main character named Naruto is a backward pupil but he make extra special efforts and become HOKAGE, which was the top of NINJA in this story. There are many magic of ninja and characters. It is very fun and exciting.

I will tell you about foreigner's thoughts of NINJA which is based on surveys in images. NINJA wears black clothes is most popular, and costumes NARUTO's characters wearing are second popular. They do not think NINJA dog and showy game's character is NINJA. The reason why they answered so, I think that they know NARUTO [11 of 12 know NARUTO], and they seemed to perceive mob dress in black as NINJA. They enumerate image of NINJA such as a spy, black, fast, cool, a male, an assassin. I felt doubtful about no reference of KUNOICHI female NINJA, but if foreigners think that mob appear in NARUTO is real NINJA, I can understand it, because all mob look as man. I want to know they take NARUTO as fabrication to what extent and how that being explained in English. In addition, I will talk about costume of NINJA. Most people think that NINJA's clothes are black and full dress and I thought so. Actually, the colors are navy-blue or kaki persimmon. The color of black stick out the shadows of night so it is not appropriate color to hide. Otherwise, there is an opinion that the color of ripe kaki was based on Iga and Kohga area's farming clothes' color so

8人の論文

the possibility of be suspect is slight. The color of most existing NINJA clothes are a party of kaki and kure. The image known as black clothes is invention and it seem to derive Sarutobi Sasuke and Kirigakure Saizo. Even Japanese may feel shock.

According to questionnaire, most popular magic of NINJA is throwing stars, second is magic to create body- doubles and walking on surface of water. They answer big throwing stars and smoke screen are really exist. I did not reference size of throwing star so I do not know how large is the size of throwing stars. Though magic to create body-doubles is creation, walking on surface of water and smoke screen, throwing stars are real existence. There are books of magic of NINJA to date, it was written from Edo era. This books is gone in Gosha no jutsu five verbal skills to control other person psychologically, Tonjutsu NINJA art of escape etc. Today, there was Fujita Seiko who called a successor of magic of NINJA lived in middle of Showa era. And there are few martial arts instructors who call themselves introduce magic of NINJA now.

A foreigner answered yes for the question “ do you think NINJA exist in Japan now?”, 11 people said no. The reason why there are no NINJA in Japan now, a student says NINJA is historical thing, other student says NINJA is an open secret. The latter may have a taboo which Japanese feel hard to understand. Others opinions are high technology disturb NINJA’s espionage activities by installing security cameras, guns are stronger than NINJA, assassination is not needed now, from NINJA to yakuza, harsh opinion NINJA exist just in movies, etc. A question of historical date NINJA exist show variation in the data. Most of people answer the era is from 11C to 13C. I think they may feel something mysterious for old age. Cause of vanishing NINJA was establishing the police, Japanese army, Japanese navy when an era shifted Meiji era. NINJA lost their energetic activity places and hired new job such as a police or relating job. And the after the Second World War, animations that are based on comic books like “Rurou ni Kenshin”, “NATUTO” are made and have been popular all over the world.

At last, I was shocked that black clothes is not real. While survey, it was impressed that many answers are influenced by fiction. Some questions made me feel that foreigner think spy is higher rank than NINJA and today’s NINJA is a boy/girl of the new generation, isn’t it? Because they live now. For foreigners, NINJA take over old good Japan and do not share in the benefit of latest high technology and use throwing stars and wisdom freely, run in the moonless night may be an accurate figure of NINJA. In that case, I think it is interst.

Reference Wikipedia

8人の論文

Difference of color sense

Iori OSONE

I'd like to show you about difference of color sense between Japan and foreign countries especially united states. One of my hobbies is eating delicious food. So I usually go to stores that sell foreign products to find out rare goods which I can't usually buy from daily stores in Japan. Every time I go there, I think some things are different in color package design between Japan and foreign countries. I can clearly tell the difference between which goods is made in Japan and which goods is made in overseas countries, even when they are arranged in same shelf. My major is information culture. So, I have a class to create simple electronic book. So I'm interested in package design and color combination characteristic of oversea countries. I want to know difference of color combination and visualization. So I investigated difference of color sense and recognition between Japanese university students and PSU students.

I asked five questions to 10 Japanese students and 10 PSU students.

- 1 Did you feel difference of color sense or color combination?
- 2 When did you feel it?
- 3 Which products do you want to buy?
- 4 What do you have image about Japan or Japanese?
- 5 What do you have image about America or American?

My expectation is that almost all people can feel the difference of color combination. The reason is that there are many stores selling foreign goodies in stations and shopping malls in Japan, so Japanese students have many opportunities to feel the difference of color combinations from different countries. Also, as there are many such stores, I expected that Japanese student can feel difference of color sense when they see snack packages or stationaries. And for PSU student, I expected that they would feel sense of color difference regarding Japan when they think of Kimono and decorative arts of Japanese castle.

For the first question, "have you ever feel difference of color sense? ", Japanese students who said yes are 100%, PSU student who said yes are 80%.

Almost all students, both Japanese students and PSU students, answered "yes".

Next I asked that "when or where did you feel it?" Japanese student's answers are that 30% of them do feel it from snack's package, 30% of them from web, 20% of them from building. On the one side, PSU student's answers are that 40% of them feel the

8人の論文

difference from snack's package, 30% of them from web, 20% of them from building. These two questions tell us that both Iba U students and PSU students have recognition about difference in color sense between different countries, but why? My topic for today is to discuss the reason why there are differences in color sense in different countries. I have two reasons about difference of color sense.

First reason is that traditions make difference. I can rarely see snack package in United States that I can always see back in Japan. And I think that package color tone in Japan resembles to jyuunihitoe's color tone and kimono's color tone. So that's why I think different traditions build difference of color sense.

2nd reason is because of the difference between life styles. I know that Japanese and American draw sun in different color. Japanese usually draw sun in red while Americans draw it in yellow. Also, when we ask that "how many rainbow color have?" Japanese will say that rainbow have 7 colors: purple, indigo blue, blue, green, yellow, orange, red. But some other countries can recognize only 5 or 6 colors in rainbow. Thus, even if people see the same color, people have different color recognition depends on where they are from. Color sense is different depending on terrain and race. I thought that this is one of the reasons. And this reason makes difference of color sense and color combination.

Next, I will show you about "Japanese color dictionary". "Japanese color" is traditional color and it has been widely used in Japan since Heian or Edo era. The Japanese colors are organized in an easy-to-understand in this dictionary. We can find most color used in Japanese packages in this dictionary. On the other hand, there are color dictionaries which are used in other countries. According to these dictionaries, there are many colors which are not used in Japan. But in America, a lot of interiors such as sofa, wall paper and web design use colors in this dictionary. This result showed us there is a color set that has been popular and familiar in different countries. First I thought, tradition make difference of color sense and color combination. That is true. Why each country has different color of sense? I would introduce "sakura-mezumi-iro" from Japanese color dictionary. This color has light red color and grey or light black color. This color based on cherry flower that name is "sikkokuzakura". This color combination is rare in America.

But, in Japan, we can usually see this color combination. Japanese people feel very relieved and comfortable unconsciously seeing this combination, because they feel it is natural to see cherry trees. thus, we can see that, color differences are involved in that country's landform and vegetation.

HANAMI —The difference of the flower viewing—

Haruna SHINOHARA

The trigger which I choose for this theme is an American cherry blossom festival. I knew this festival when I check it about exchange of Japan and America. I was astonished that the Japanese cherry blossom is in America. I wonder whether there is flower viewing culture in America apart from the International Cherry blossom Festival. First, I will introduce HANAMI.

The Nara period is considered as the beginning of the Japanese flower viewing culture. During that time period, instead of the cherry blossom, the plum tree which was originally from China, was the mainstream of flower viewing. Cherry blossom started to become more popular for viewing during the Heian Period. Aristocrats also started to plant cherry blossoms in their gardens around that time. The common people did not start to have a flower viewing culture until the Edo Period.

What is it in America?

Americans don't have the traditional culture of flower viewing. Picnic is probably the most similar thing to HANAMI. Although there are also cherry blossom festivals in the United States, I still assumed that only very few Americans know about the HANAMI culture from Japan.

In order to find out about American's opinion on flower viewing in Japan and here, I did short interviews with several students. I asked three questions:

1 Do you know Japanese HANAMI?

2 What do you think about the difference of HANAMI and picnic?

3 Have you been to International Cherry blossom Festival in Washington D.C.?

As the result, I found out that my hypothesis was not right. They know about HANAMI, but only a few of them have been to the festival. The culture of flower viewing is not very common in the United States. They also think that a picnic is not similar to HANAMI, because the purpose of a picnic is eating rather than sightseeing. Therefore, HANAMI in United States is different from the one in Japan.

Why don't Americans have the Japanese flower viewing culture?

I think there are two reasons for that. Religion is the first reason.

Due to the wide spread of Shintoism, Japanese believe that gods are everywhere. Spirits are in everything, like a mountain, a river, a flower, and even a rock. Japanese believe god stays in cherry blossoms too, so they spend time with god and Cherry blossoms to purge their evil. There has been a tradition that people go out to hills and fields and love a flower in spite of Sakura since thousands of years ago. This is a totally different religion from Christianity in America and in Europe because Christian don't

8人の論文

believe the existence of spirits in small things like flowers. Therefore, it is hard for people in America and Europe to appreciate flower viewing like Japanese people do.

In my opinion, floral fragrance is another reason. Americans appreciate flowers with strong fragrance like roses, Carolina jasmine, and moonflower. However, Japanese people tend to choose to have picnics under cherry blossom trees or Prunus mume trees because they think that when you are around the strong fragrance, you can't really relax. They think it is important to feel the nature instead of the strong and even unpleasant smell.

In conclusion, I believe there is still Hanami in America. The only difference is that people in America and Japan appreciate flowers in different ways due to different cultures.

Street Performance in the U.S.

Kohei TOMINAGA

In America, street performance is popular. However, in Japan it is not. I wonder why there are so many differences between the two countries.

(Differences of street performance)

America

The First Amendment gives the American people the right to freedom of expression. Therefore, they can have performances, such as suddenly singing a song, and dancing on the street etc. But there are places where you cannot have a performance. If you hinder traffic, including pedestrians, there is a \$60 fine.

I saw some street performances. There were many kinds of performances. For example, dancing near the Statue of Liberty, playing guitar in strawberry fields, harp and koto etc. They often put out a hat or box to collect money.

A performance had just started, but there was already some money (\$1~\$10) in it beforehand. Why? I guessed they prepare some money on purpose. To put money in advance encourages people to also give money.

(Example: A performer in Central Park)

A woman played the harp in Central Park. She was 60s years old, and had done street performance for 50 years.

Her earnings each day totaled about \$50. On a good day, they totaled about \$100. She also sold her CDs. They were \$10 each. But she didn't add the money she earned from her CDs into the hat.

(Street Performance in Japan)

People have the right to freedom of expression. But people mustn't perform in public

8人の論文

places. They need the permission of a manager. However, Japanese people are rarely given permission to perform on the street. Many street performance festivals are held in Japan. Street performers in Japan also request tips. It is hard to do performance in Japan. It is not customary to tip for good service.

The Japanese tip about 100yen~1000yen. 1000 yen is a good tip, therefore there is a saying “Give me a paper which can fold up”(paper=more than 1000yen)

(Variety of performance)

Example: painting, playing a musical instrument, magic, singing, etc. In Times Square I saw a funny performance in which people took pictures with a cartoon-character’s costume.

In America, the most common type of performance is musical performances, for example, playing the violin. In Japan, the most common type of performance is also musical performances, in addition to juggling.

I thought America had many kinds of performances.

(Street Performance in Japan)

Tokyo

‘Heavens Artist’ There is a rule that Tokyo allows performers to perform in Tokyo. It is called ‘Heavens Artist’. They have to get approval to perform in Tokyo. In order to perform in Tokyo, performers must first be judged and gain approval. There are currently about 450 approved performers.

Mito

‘Mito Machinaka Performer’

‘Mito Machinaka Performer’ is a website.

It helps to connect performers who want to perform with organizers who hold events.

It is managed by *Mtosyokoukaigisyo*.

Many kinds of performer are registered.

Currently there are about 100 registered performers.

(Conclusion)

I have come to consider street performances in America a business. The purpose of a performer is to earn money. But not all performers feel that way, some performers simply want someone to hear or see their work. In contrast, performers’ in Japan’s primary purpose for performing is to entertain others, not to earn money.

This difference may come from the differences in tipping between America and Japan. Americans usually tip. It is natural. However, Japanese people do not. For Japanese people, tipping is unnatural. If I compare American street performances to Japanese street performances, I think Japanese street performances are more sincere.

What is your favorite season?

Moegi KUMAKI

“In spring, the dawn is the most beautiful moment of the day. As the light slowly shines over the hills, their outlines are dyed faint red and wisps of purplish cloud trail over them.” “In summer, the nights, not only when the moon shines, but on dark nights too, as the fireflies flit to and fro, and even when it rains, how beautiful it is!”

This is a part of an essay written by Sei syounagon. She worked under a Japanese emperor about 1000 years ago. For ages, Japanese people have been in touch with the seasons, making a life together in the four seasons. I also feel the difference of the seasons coming around each year. Each of them has unique characteristics and smells, and that is very “interesting.”

However, there are countries that have an everlasting summer or frigid winter throughout the year. When people living in those places experience the four seasons in Japan, what do they think of it? Will they still prefer to live with their own weather or the opposite? Also, how about the countries which have similar seasons to Japan? Is there a difference?

In Japan, spring is the season when everything starts. Schools begin a new term to welcome freshmen, and companies start to take a step with new employees. Furthermore, cherry blossoms are something that come to mind first in Japan! All Japanese people love cherry blossoms and they make us happy when we see them. If you visit Japan during spring, you can see Ohanami everywhere. That’s why I think the Japanese tend to prefer spring.

On the other hand, I think Americans tend to prefer winter because there are important holidays like Christmas and the New Year. So, I collected questionnaires from both Japanese students and American students to examine my hypothesis.

First, I asked 16 Japanese students, “Which season do you prefer?” Five people answered that they preferred spring. This is as many as people who are fond of summer and fall. Only one student answered “winter” because he likes the Christmas illuminations.

Second, I had 23 PSU students help me by answering the same question. Four students chose winter, six chose spring, five chose fall, and seven chose summer, making it the most popular. It was surprising for me that there was an uneven amount of people who picked each season from both countries.

When I asked (1) favorite holiday, (2) favorite weather, (3) their hobbies when asking their favorite seasons, both student’s favorite holiday were almost Christmas or

8人の論文

the New Year which is held in winter. Some PSU students prefer Thanksgiving, as I thought, but I found that there is no relationship between favorite holidays and favorite seasons. All Japanese students like sunny weather except one student. He chose cloudy weather because he is allergic to ultraviolet rays, so it can be implied that he dislikes the sun.

On the other hand, many American students said they like cloudy weather. Moreover, some of them like snowy weather and thunder storms. That was unexpected for me.

I have noticed several things through my survey and spending time with Americans. It is very bright on a sunny day in America. There is less dust and no more than 30% humidity in the summer, compared to an average of 80% humidity in the summer time in Japan. That's why I think American students prefer cloudy weather.

However, I often heard that this place receives heavy snow and it is terrible. Someone said he likes snow because classes might close but most Americans seem to like summer better than a long winter since they can do more outdoor activities. I found that the season they like largely depends on their land's weather conditions.

Meanwhile, Japanese and Americans have different reasons to celebrate holidays. Japanese enjoy Christmas because it is fun, but Americans enjoy Christmas stating, "Christmas and Thanksgiving are important time to spend with family."

I read on the internet and found that it comes from a religious idea. According to the bible, God gave Eve to Adam to make "a family," In such a way, Americans considered "family," as what is given by God, something to cherish. However, nowadays it is more customary or cultural than religious. I was told that Christmas and Thanksgiving are holidays to express your appreciation for family.

"There is no right answer for preferences," So, I cannot see any differences between two countries' student hobbies. For example, some students enjoy traveling, reading books, or playing video games, etc. There were also funny answers like this one; a girl loves burritos, so she wants to become a burrito. I think a Japanese person would never write this, so I cannot help but laugh!

America and Japan are different countries. They have different cultures and speak different languages. However, I can understand that we are the same human beings and have the same experiences through this investigation.

In spring, we feel a breath of new life. In fall, we enjoy good food or we like fall because we can wear fashionable clothes. Though, we prefer mild seasons for ourselves. Even if we live in different countries, we can share the same experiences, and I think there are always chances to get along with each other.

Students and Cars

Anna TORIHATA

<Introduction>

I often watch American movies and dramas. I've watched situations where high school students go to school by their own car in some American movies. However, things like this are impossible in Japan. I investigated Americans' car life and Japanese people's. And, I made a questionnaire to investigate. 20 PSU students and Ibaraki University students answered it.

<Contents of questionnaire>

- Do you have a driver's license?
 - ① When did you get it?
 - ② How long did it take?
 - ③ How much was the cost?
- Do you have your own car?
- What car do you want?

<Speculation>

- I expected that American's rate of having a driver's license is higher than the Japanese one. Because most states allow people to get a driver's license at 16 years old. But in Japan, people can get it at 18.
- I expected that most people who have a license have their own car. Because America has vast territory, they need a car to go anywhere.
- I expected that Americans attach importance to appearance. For example, sport cars and luxury cars.

<Conclusion>

- (1) In the case of PSU students, 16 people have a driver's license. 4 people don't have it. 4 people got it when they were 16 years old. 3 people did it when they were 17 years old. 6 people did it when they were 18. 1 person did it when they were 19 years old. 1 person had no answer. As for how many days it took to get a license, 8 people took between 1 and 14 days to get it. 3 people took between 15 and 20 days. 1 person took between 30 and 40 days. 1 person took between 50 and 60 days. 2 people took more than 90 days. Next is the point of cost. For 7 people, it cost \$ 100 to \$150. For 2 people, it cost \$ 200 to \$350. For 2 people it cost \$ 500 to \$600. For 1 person, it cost about \$ 1000. 4 people had no answer. In the case of Ibaraki university students, 11 people have a driver's license. 9 people don't have it. 6 people got it when they were 18. As for how long it took to get it, 3 people took between 15 and 20 days. 5 people

8人の論文

took between 30 and 40 days. 1 person took between 50 and 60 days. 1 person took more than 90 days to do it. Next is the point of cost. For all students, it cost between \$ 2500 and \$3000.

- (2) In the case of PSU students, 16 people have a driver's license. 12 people have their own car. 4 people don't have their own car. In the case of Ibaraki University students, 11 people have a driver's license. But only 3 people have their own car. 8 people don't have one.
- (3) In the case of PSU students, 7 people want a car like a sports car. 5 people want a big car. In the case of Ibaraki University students 9 people want a small car like a minicar. 6 people want a medium size car.

<Analysis>

- (1) PSU students have a high percentage of holding a driver's license. 80% of students have a driver's license. The age at which one gets a driver's license influences this conclusion. All students of both universities who don't have a driver's license want to get it. Time and cost are big problem for them.
- (2) The reason that high percentages have their own car in PSU is that they need to use a car as a means of movement. Because America has very vast territory, from place to place is far and public transportation is less developed. On the other hand, public transportation is very developed in Japan.
- (3) In the case of PSU students, Functionality and big size are important for them. If they have a functional and big car, they can drive a long way in comfort. In the case of Ibaraki University students, before I surveyed, I expected small cars are the most popular in Ibaraki University, because a small car is economical. However, the reason is color and shape.

<Summary>

Through the investigation, I feel there is a difference of ideas and national characteristics between American students and Japanese students.

編集後記

2週間の短い研修ではありましたが、PSU 研修では、毎日新しい発見があり、個人個人にとって、とても充実した2週間でした。研修の大イベントの一つである論文発表に向けた準備の中で、PSU 生との仲を深め、英語を学習するなど様々な経験ができました。

報告書を作るにあたり、ご協力くださいました、古賀先生、学務係の清家さん、PSU の岩見先生、Smits 先生、PSU 生に深く感謝したいと思います。貴重な経験をありがとうございました。See you again!!

編集員一同

2015 茨城大学人文学部・ペンシルベニア州立大学交流事業 報告書

交流事業 責任者

人文学部 古賀純一郎

交流事業引率者

人文学部 学務係 清家佑華

編集長 大曾根伊織（教育学部）

副編集長 鈴木里沙（人文学部）

発効日：2016年2月20日

発行者：古賀純一郎

代表者：古賀純一郎

〒319-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1 茨城大学人文学部

印刷所：佐藤印刷（株）

〒310-0043 茨城県水戸市松が丘 2-3-23